

# 中 島 配 水 場

## 建 屋 耐 震 補 強 工 事

番号	図面名	番号	図面名
A-01	工事概要・仕上表	A-16	改修展開図 4
A-02	見取図・配置図・仮設計画図	A-17	改修展開図 5
A-03	現況平面図	A-18	改修天井伏図
A-04	改修平面図	A-19	建具キープラン
A-05	床面改修平面図	A-20	建具表 1
A-06	現況・改修立面図	A-21	建具表 2
A-07	現況劣化部立面図		
A-08	現況・解体断面図 1		
A-09	現況・解体断面図 2	S-01	構造設計標準仕様書
A-10	改修断面図 1	S-02	鉄骨構造標準図(1)
A-11	改修断面図 2	S-03	鉄骨構造標準図(2)
A-12	解体・改修平面詳細図	S-04	1階・屋根梁伏図
A-13	改修展開図 1	S-05	軸組図
A-14	改修展開図 2	S-06	架構詳細図
A-15	改修展開図 3	S-07	接合部詳細図

建築物概要

面 積	敷地面積	・・・	1, 777. 00㎡				
	建築面積	・・・	251. 22㎡				
	床面積	・・・	1階 248. 72㎡	B階 237. 38㎡	合計	486. 10㎡	

改修概要

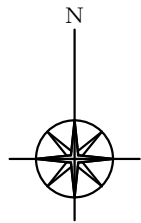
外 部	劣化改修工事	外部塗装面の剥離補修・モルタル面クラック処理・シーリング改修・全面的仕上塗装塗替え 【既存仕上は、改修立面図参照】
内 部	耐震補強工事	鉄骨ブレース設置にて耐震補強・それに伴う撤去、改修工事
	劣化改修工事	床面のクラック補修、及び塗床の改修・壁、天井面の塗装
	その他	別途機械工事の施工に伴う建築改修絡みの補修工事

内部仕上表

室 名	既存 改修後	床	下 地	巾 木	高さ	壁	下 地	見切	天 井	下 地	天井高	備 考
玄 関	既存	１００口磁器タイル	ア30mm下地モルタル	モルタルコテAEP	200	ビニルクロス	ア9mm石膏ボード	塩ビ撤去	ア9mm石膏吸音板撤去	軽天下地	3. 000	
	改修後	既存のまま	—————	モルタルコテEP新設	200	既存のまま	—————	塩ビ新設	既存の上EP塗装	—————	既存のまま	
ホール	既存	ア2. 5mm長尺塩ビシート	ア12mm下地合板 鋼製床組	ビニル巾木	100	ビニルクロス	ア9mm石膏ボード	塩ビ撤去	ア9mm石膏吸音板撤去	軽天下地	3. 000	
	改修後	既存のまま	—————	既存のまま	100	既存のまま	—————	塩ビ新設	既存の上EP塗装	—————	既存のまま	
管理室	既存	ア2. 5mm長尺塩ビシート	ア12mm＋12mm下地合板 鋼製床組	ビニル巾木	100	ビニルクロス	ア9mm石膏ボード	塩ビ撤去	ア9mm石膏吸音板撤去	軽天下地	3. 000	
	改修後	既存の上よりア2. 5mm塩ビシート 耐震改修部：ア2. 5mm塩ビシート	耐震改修部：ア15mm下地合板 鋼製床組	ビニル巾木新設	100	既存クロス撤去後 ビニルクロス貼	休憩室、押入との壁改修 ア12. 5mm石膏ボード	塩ビ新設	既存撤去後 ア9. 5mm化粧石膏吸音板(不燃材)	—————	既存のまま	休憩室(旧押入含)との間仕切り改修部復旧は、改修断面図参照
給湯室	既存	ア2. 5mm長尺塩ビシート	ア12mm＋12mm下地合板 鋼製床組	ビニル巾木	100	ビニルクロス	ア9mm石膏ボード	塩ビ撤去	ア9mm石膏吸音板撤去	軽天下地	2. 400	
	改修後	既存の上よりア2. 5mm塩ビシート 耐震改修部：壁改修部既存仕様にて復旧	—————	ビニル巾木新設	100	既存クロス撤去後 ビニルクロス貼	既存のまま 給湯室との建具及び壁撤去・補修	塩ビ新設	既存撤去後 ア9. 5mm化粧石膏吸音板(不燃材)	建具壁撤去に伴う 軽天解体復旧	既存のまま	便所との間仕切り改修部復旧は、改修断面図参照
便 所	既存	ア2. 5mm長尺塩ビシート	ア30mmモルタルコテ	ビニル巾木	100	ビニルクロス	ア9mm石膏ボード	塩ビ撤去	ア9mm石膏吸音板撤去	軽天下地	2. 400	
	改修後	木床組、和便器解体撤去 既存の上よりア2. 5mm塩ビシート	既存モルタル撤去後目あらし ア30mmモルタルコテ下地	ビニル巾木新設	100	既存クロス撤去後 ビニルクロス貼	既存のまま 給湯室との建具及び壁撤去・補修	塩ビ新設	既存撤去後 ア9. 5mm化粧石膏吸音板(不燃材)	建具壁撤去に伴う 軽天解体復旧	既存のまま	給湯室との間仕切り改修部復旧は、改修断面図参照 和便器解体撤去の後、砂充填とする
休憩室	既存	タタミ	ア12mm下地合板 鋼製床組	タタミ寄	60	ビニルクロス	ア9mm石膏ボード	木廻り縁撤去	ア9mm杉桎化粧石膏ボード撤去	軽天下地	2. 400	
	改修後	タタミ、板の間撤去後 ア2. 5mm塩ビシート	ア28+28+12mm下地合板 鋼製床組撤去後新設	ビニル巾木新設	100	既存クロス撤去後 ビニルクロス貼	管理室、押入との壁改修・補修、建具撤去 ア12. 5mm石膏ボード	塩ビ新設	既存撤去後 ア9. 5mm化粧石膏吸音板(不燃材)	建具壁撤去に伴う 軽天解体復旧	既存のまま	管理室、押入との間仕切り改修部復旧は、改修断面図参照
押 入	既存	ア6mm合板	ア12mm下地合板 鋼製床組	雑巾摺	—	ア9mm石膏ボード	—————	木廻り縁撤去	ア9mm石膏ボード撤去	軽天下地	2. 400	枕棚、中棚撤去
	改修後	ア6mm合板撤去後 ア2. 5mm塩ビシート	ア12mm下地合板、鋼製床組撤去後新設 (休憩室と同じ床高)	ビニル巾木新設	100	ビニルクロス貼	休憩室との壁改修、建具撤去 ア12. 5mm石膏ボード	塩ビ新設	既存撤去後 ア9. 5mm化粧石膏吸音板(不燃材)	建具壁撤去に伴う 軽天解体復旧	既存のまま	
発電機室	既存	エポキシ樹脂塗床	モルタルコテ シンダーCON下地	エポキシ樹脂塗床	100	ア9mm石膏ボードEP	—————	塩ビ	ア6mmフレキシブルボード 撤去	軽天下地	3. 500	撤去ア6mmフレキシブルボードは、アスベスト含有品
	改修後	クラック補修の上エポキシ樹脂塗床	既存のまま	塗床重ね施工	100	EP塗替え	—————	既存のまま	ア6mmフレキシブルボード 新設 EP	既存軽天利用	既存のまま	
滅菌室	既存	エポキシ樹脂塗床	モルタルコテ シンダーCON下地	エポキシ樹脂塗床	50	ア9mm石膏ボードEP	—————	塩ビ	ア6mmフレキシブルボード 撤去	軽天下地	3. 500	撤去ア6mmフレキシブルボードは、アスベスト含有品
	改修後	クラック補修の上エポキシ樹脂塗床	既存のまま	塗床重ね施工	50	EP塗替え	—————	既存のまま	ア6mmフレキシブルボード 新設 EP	既存軽天利用	既存のまま	
苛性ソーダ注入室	既存	エポキシ樹脂塗床	モルタルコテ シンダーCON下地	エポキシ樹脂塗床	100	ア9mm石膏ボードEP	—————	塩ビ	ア6mmフレキシブルボード 撤去	軽天下地	3. 500	撤去ア6mmフレキシブルボードは、アスベスト含有品
	改修後	クラック補修の上エポキシ樹脂塗床	既存のまま	塗床重ね施工	100	EP塗替え	—————	既存のまま	ア6mmフレキシブルボード 新設 EP	既存軽天利用	既存のまま	間仕切り改修部復旧は、改修断面図参照
ポンプ室	既存	エポキシ樹脂塗床	モルタルコテ シンダーCON下地	エポキシ樹脂塗床	100	ア9mm石膏ボードEP	—————	塩ビ	ア6mmフレキシブルボード 撤去	軽天下地	3. 500	撤去ア6mmフレキシブルボードは、アスベスト含有品
	改修後	クラック補修の上エポキシ樹脂塗床	既存のまま	塗床重ね施工	100	EP塗替え	—————	既存のまま	ア6mmフレキシブルボード 新設 EP	既存軽天利用	既存のまま	間仕切り改修部復旧は、改修断面図参照

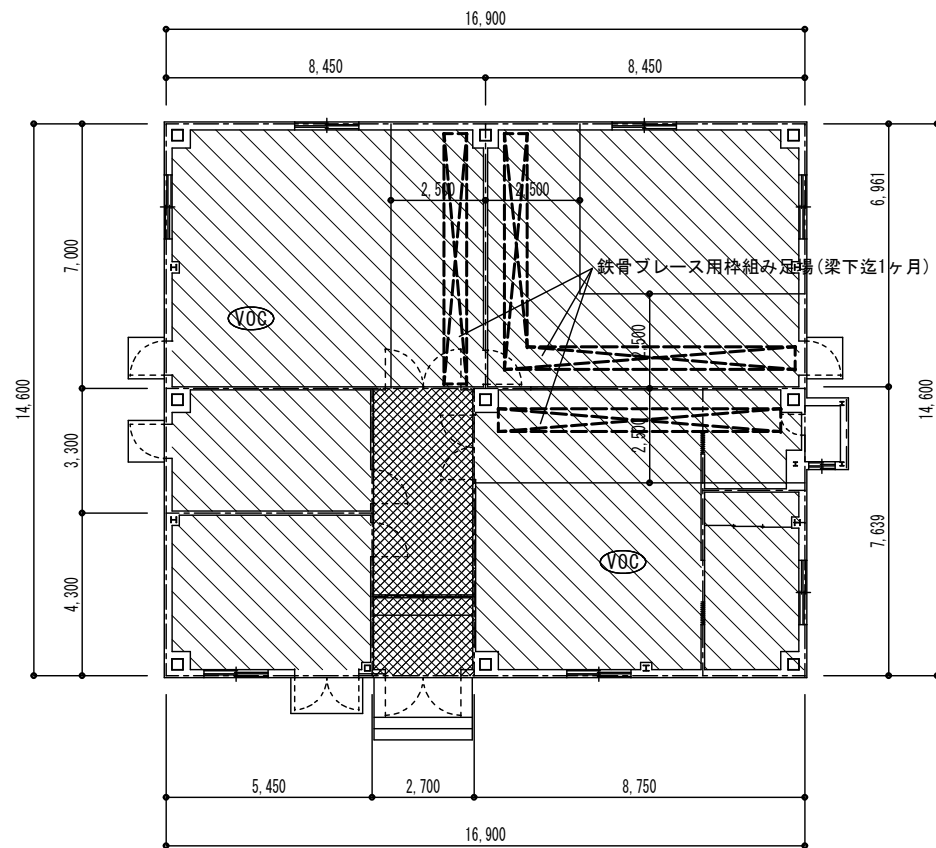
特記事項

<div>Mori株式会社MORI建築設計室</div> <div>帯広市緑ヶ丘東通東40番地 TEL (H) (0155) -22-1102</div> <div>一級建築士事務所(十)登録第136号 一級建築士第158671号 森 義 孝</div>	工 事 名	中 島 配 水 場				検 図		担 当		製 図	
	図 名	耐 震 補 強 工 事				設 計 図					
		工 事 概 要 ・ 仕 上 表	縮 尺	1/	日 付	2022 年 6 月	番 号	A — 0 1			



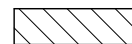
工事場所：帯広市中島町東4線120-6

見取図

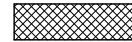


内部仮設計画図

凡例



内部足場・複合改修用養生範囲

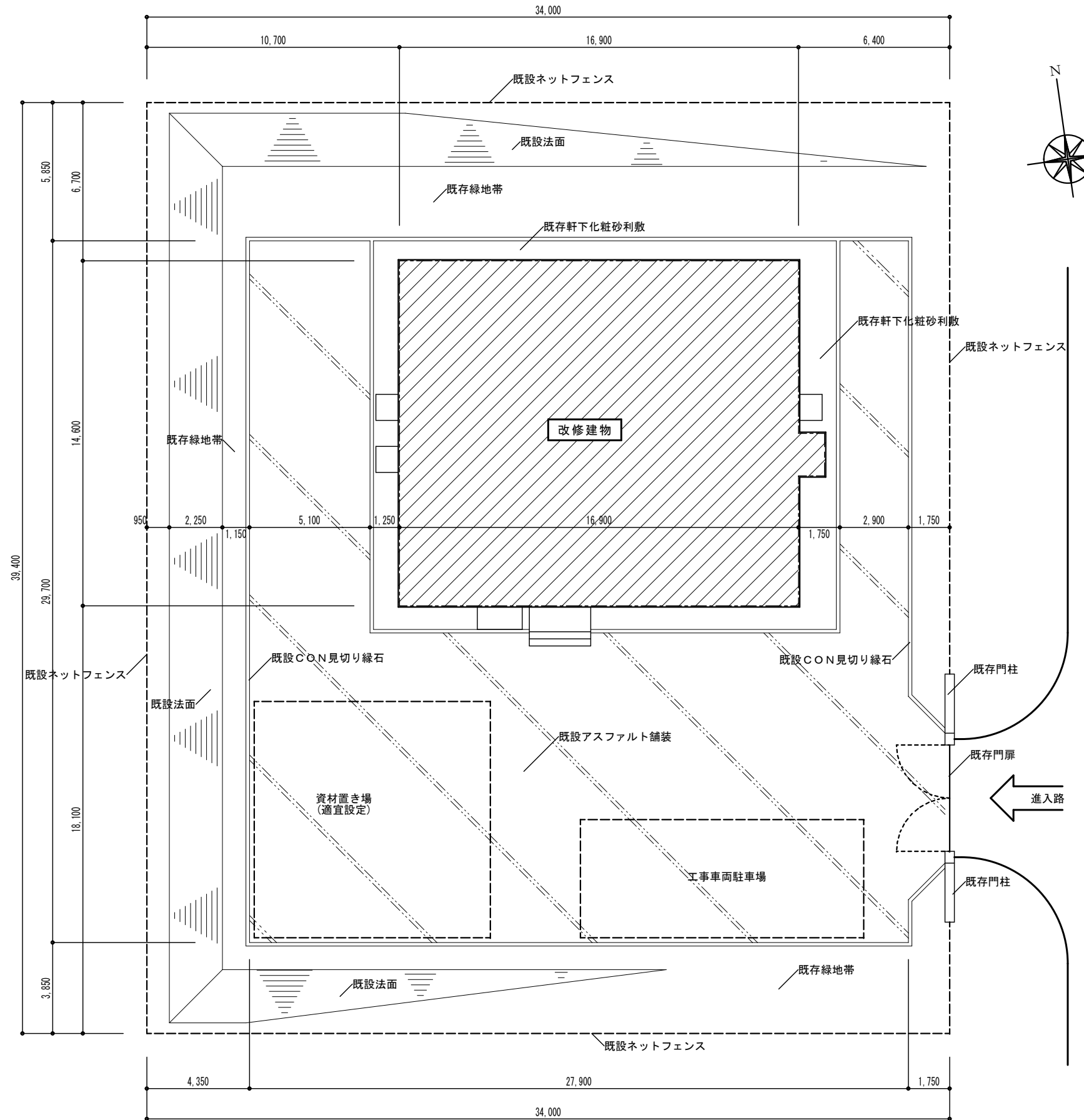


内部足場・塗装塗り替え改修改修用養生範囲



VOC濃度測定位置

配置図



株式会社 建築設計室

帯広市緑ヶ丘東通東40番地  
TEL (TEL) (0155)-22-1102

一級建築士事務所(十)登録第136号

一級建築士第158671号 森 義孝

工事名

中島配水場

耐震補強工事

設計図

図名

見取図  
配置図・仮設計画図

縮尺

N/S

1/200

日付

2022年6月

検図

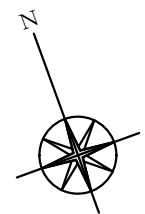
担当

製図

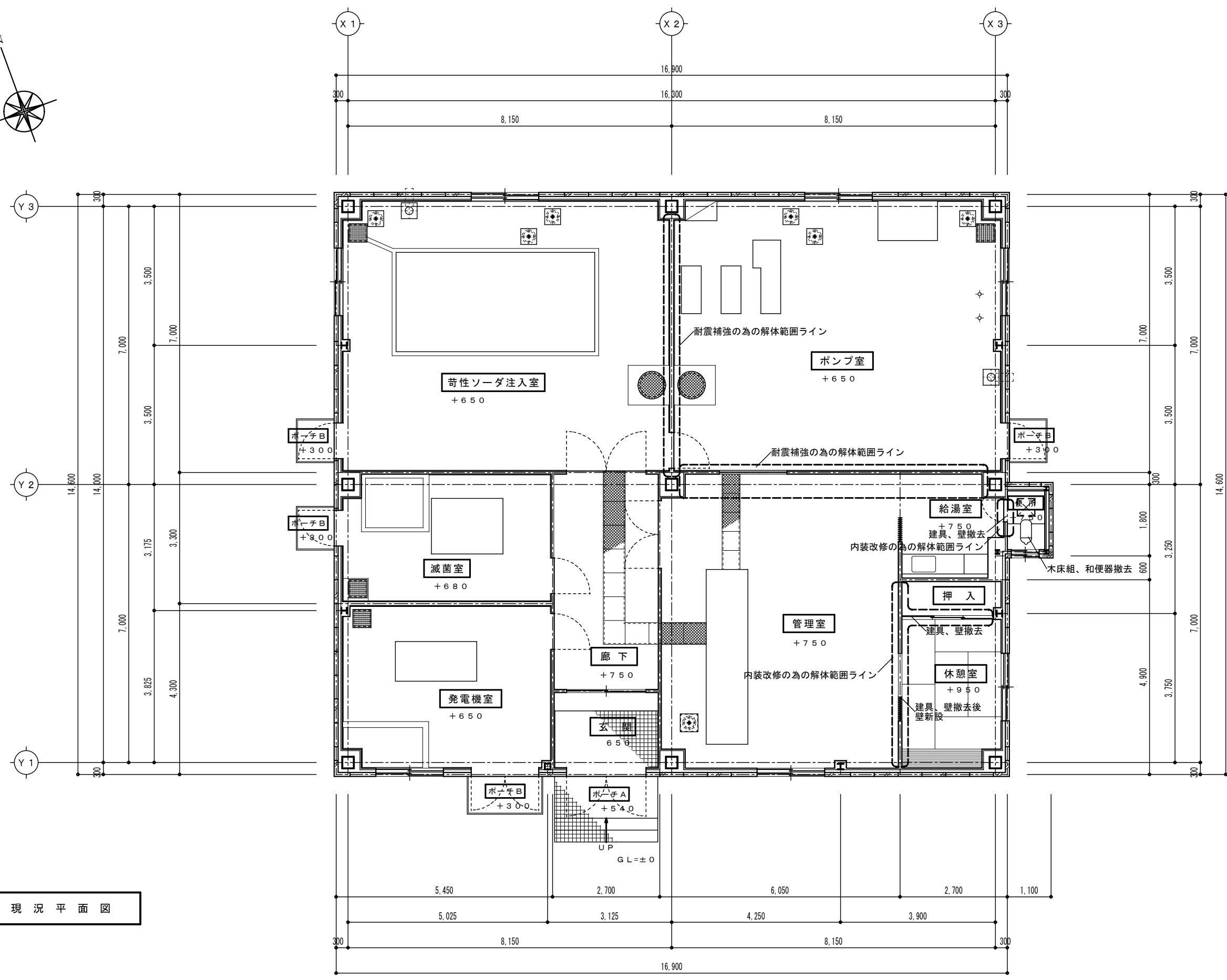
番号

A

02



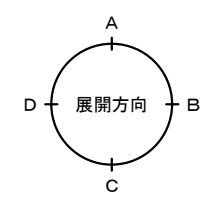
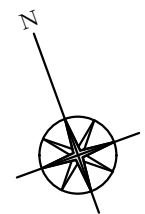
現況平面図



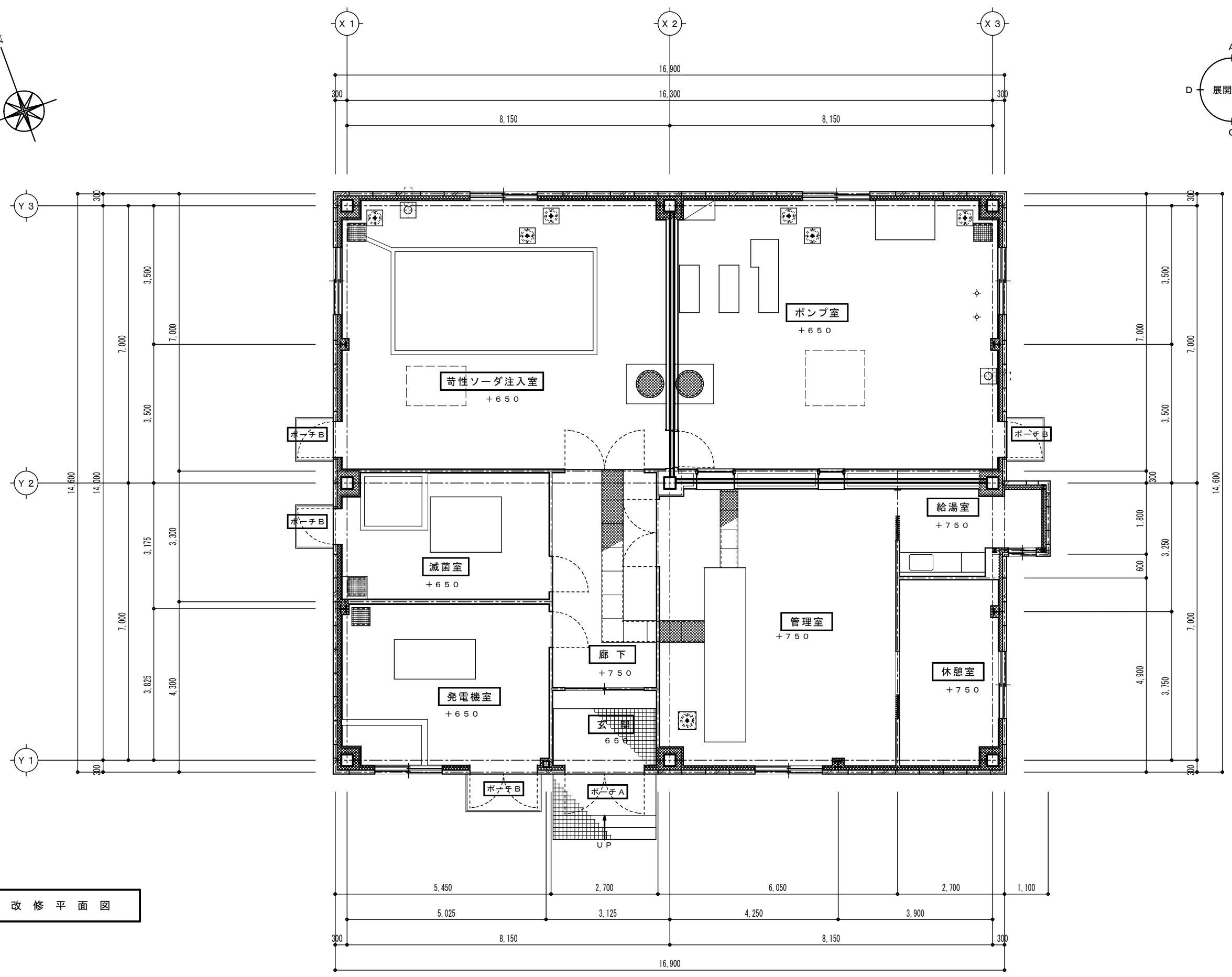
特記事項

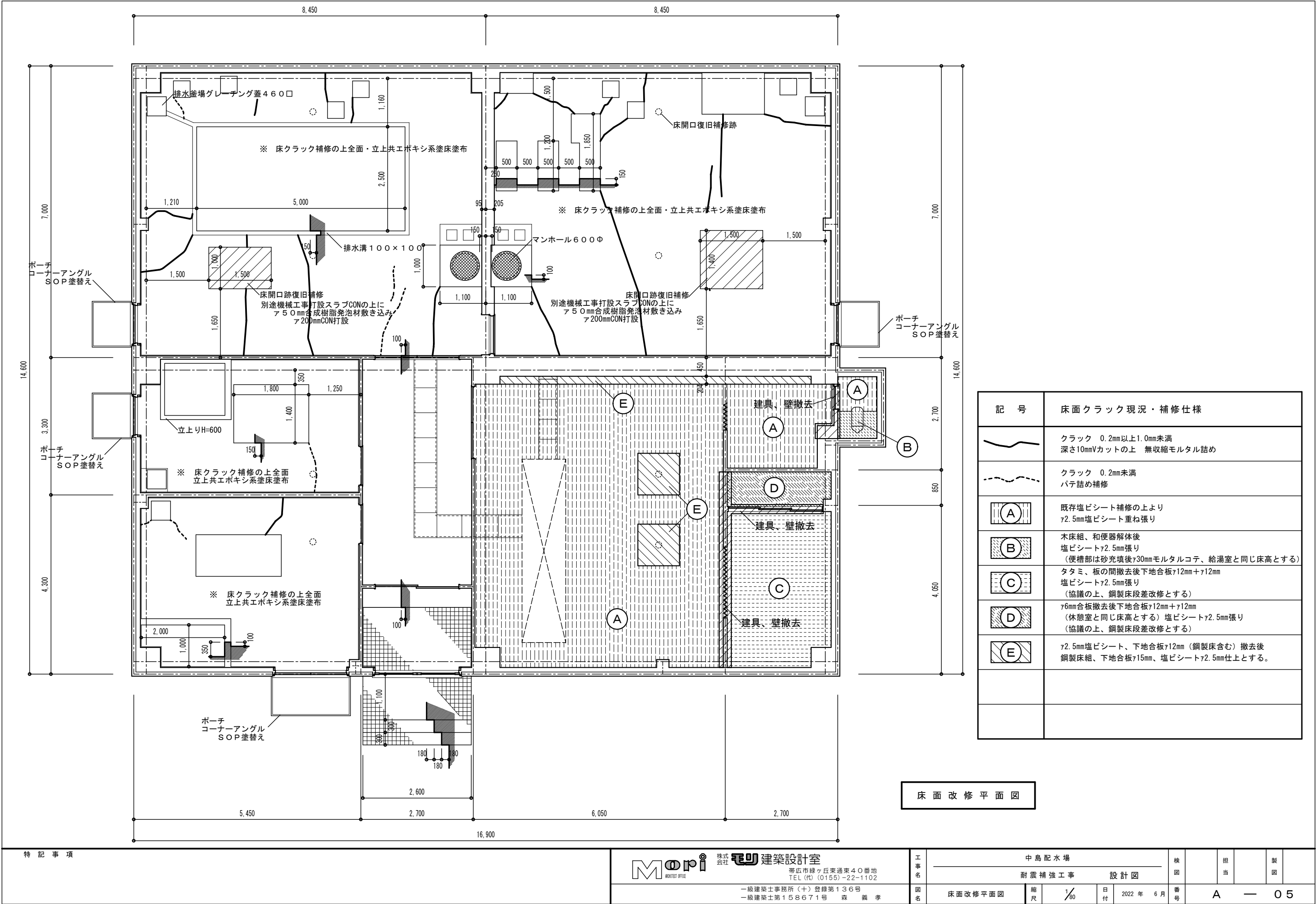
**Mori** 株式会社 **建築設計室**  
帯広市緑ヶ丘東通東40番地  
TEL (代) (0155) -22-1102  
一級建築士事務所(十)登録第136号  
一級建築士第158671号 森 義孝

工事名	中島配水場			検図	担当	製図
図名	耐震補強工事			設計図		
現況平面図	縮尺	1/100	日付	2022年 6月	番号	A — 03



改修平面図

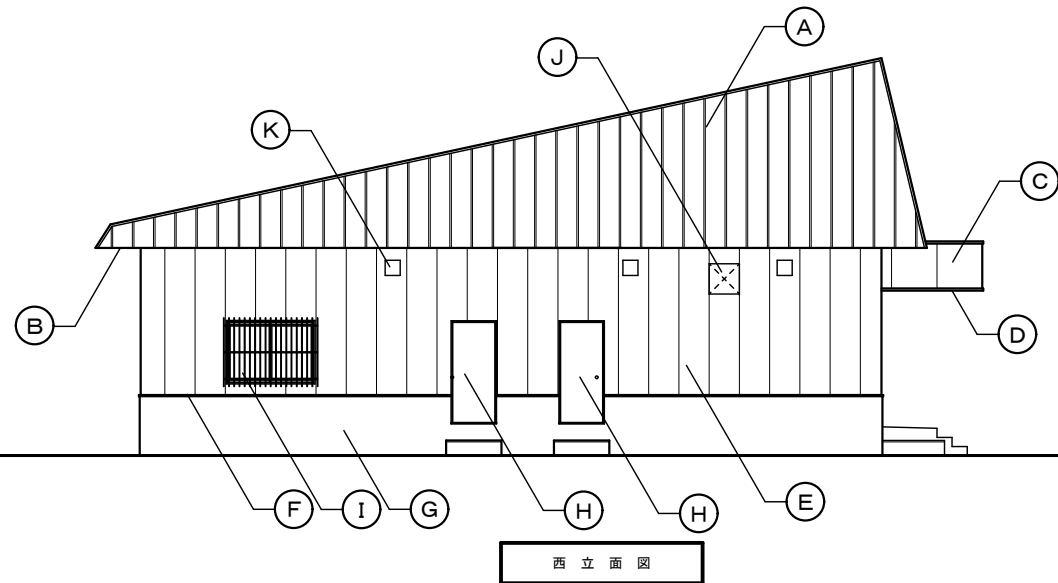
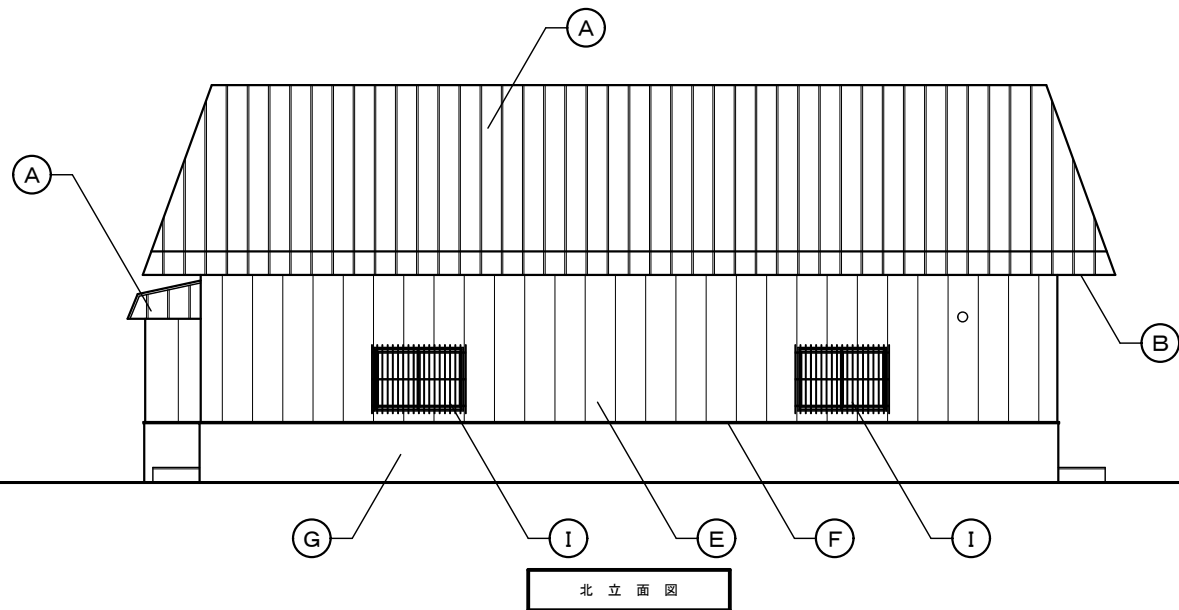
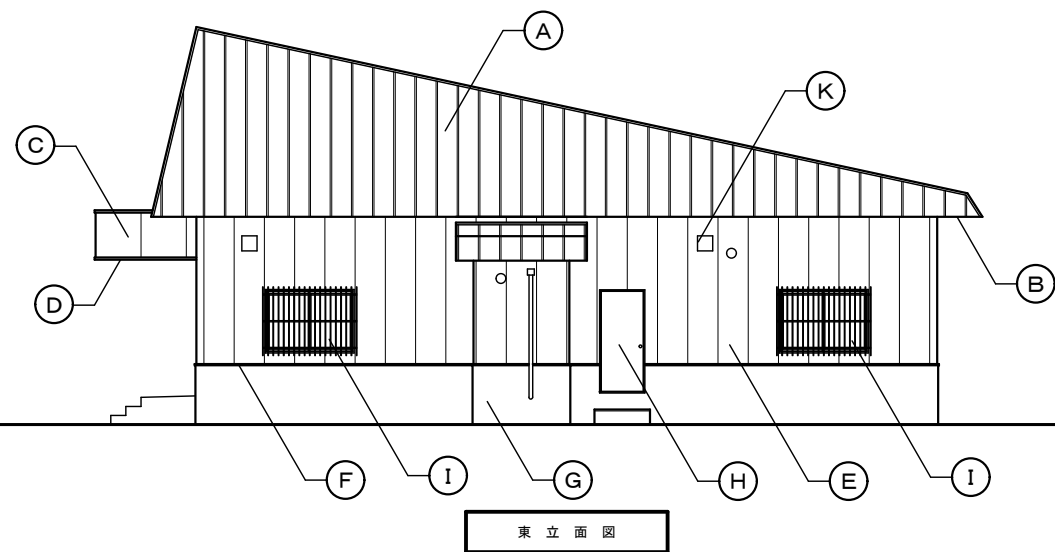
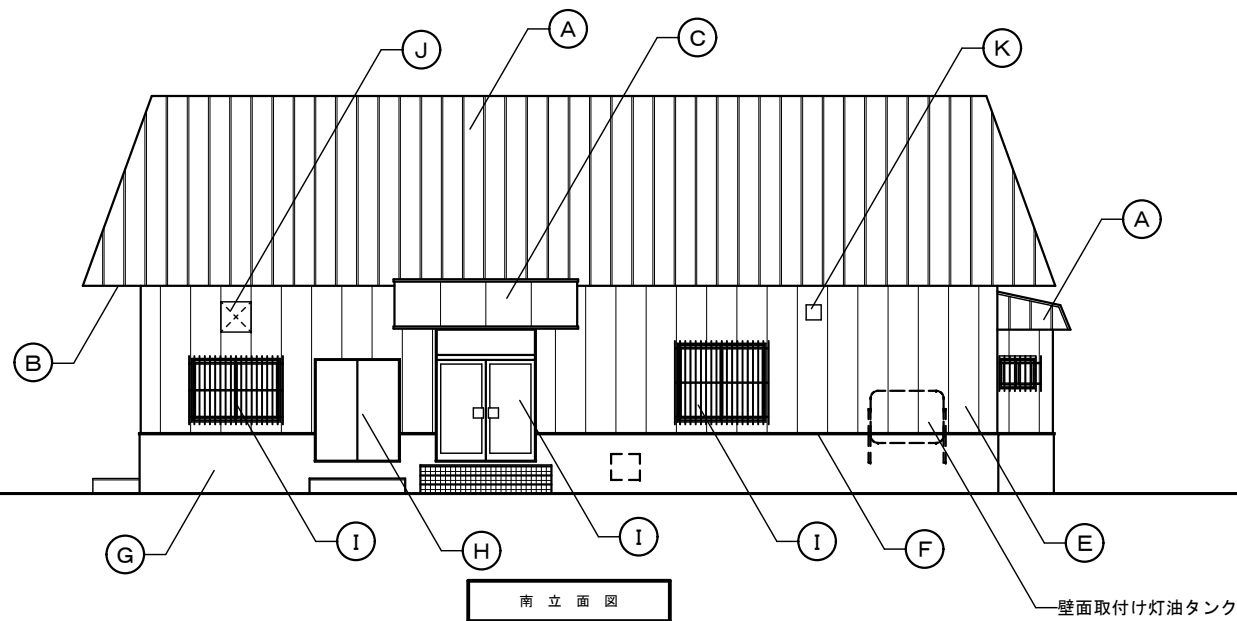




特記事項

Mori 株式会社 建築設計室  
帯広市緑ヶ丘東通東40番地  
TEL (代) (0155) -22-1102  
一級建築士事務所(十) 登録第136号  
一級建築士第158671号 森 義孝

工事名	中島配水場			検図		担当		製図	
図名	耐震補強工事 設計図								
	床面改修平面図	縮尺	1/80	日付	2022年 6月	番号	A	—	05



記 号	改 修 ・ 仕 上	現 況 仕 上 ・ 下 地	記 号	改 修 ・ 仕 上	現 況 仕 上 ・ 下 地
Ⓐ	屋根 : D P 塗替え	長尺カラー鉄板 (瓦棒葺) ア0. 3 5 mm アスファルトルーフィング22 k 野地板 1 2 mm	Ⓗ	鋼製建具 : D P 塗替え 周囲シーリング改修	鋼製建具面 O P
Ⓑ	軒天 : E P 塗替え	ア6. 0 mmフレキシブルボード A E P	Ⓘ	アルミ建具 : 金物類改修 (建具表参照) 周囲シーリング改修	アルミサッシ シルバー色
Ⓒ	庇壁 : 既存塗膜除去の上 E P 塗替え 目地シーリング改修 ※既存塗膜除去材はジクロロメタン含有ではない物とする	ラスモルタル刷毛引き目地切仕上 A E P	⓵	フード A : D P 塗替え 周囲シーリング改修	鋼製フード600□ O P
Ⓓ	庇軒天 : D P 塗替え	カラー鋼板スパンドレル	⓶	フード B : 周囲シーリング改修	SUS製300□
Ⓔ	外壁 : 既存塗膜除去、下地処理の上 可とう形外装薄塗材E (砂壁状) 吹付 ※既存塗膜除去材はジクロロメタン含有ではない物とする	ALC版 A E P リシン吹付			
Ⓕ	水切り : D P 塗替え シーリング改修	ア2. 3 mm鋼板加工 O P	その他	ポーチ B : ノンスリップ用コーナーアングル D P 塗替え	L-30×30×3 O P
Ⓖ	腰壁基礎 : 既存塗膜除去の上 E P 塗替え モルタル面クラック補修	ア25 mmラスモルタルコテ A E P ポーチ立上りは、CON打放補修仕上げ			

特 記 事 項



株式会社 建築設計室

帯広市緑ヶ丘東通東40番地  
TEL (代) (0155) -22-1102

一級建築士事務所 (十) 登録第136号  
一級建築士第158671号 森 義 孝

工  
事  
名

中島配水場

耐震補強工事

設計図

図  
名

現況・改修立面図

縮  
尺

1/150

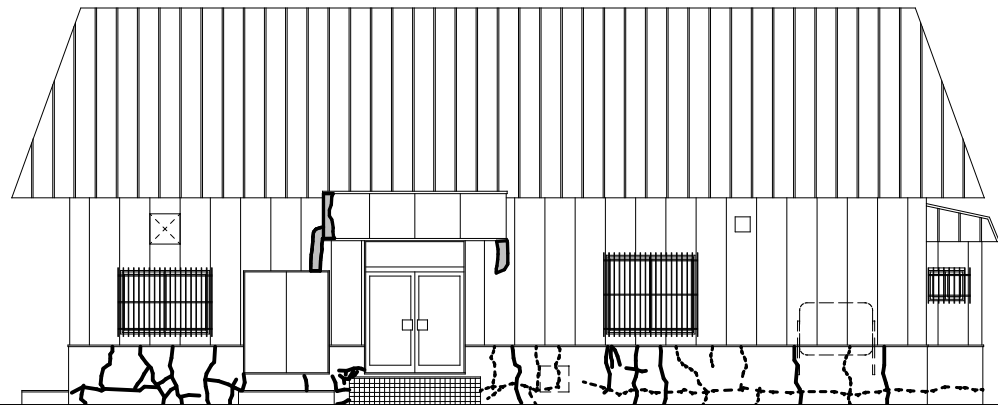
日  
付

2022 年 6 月

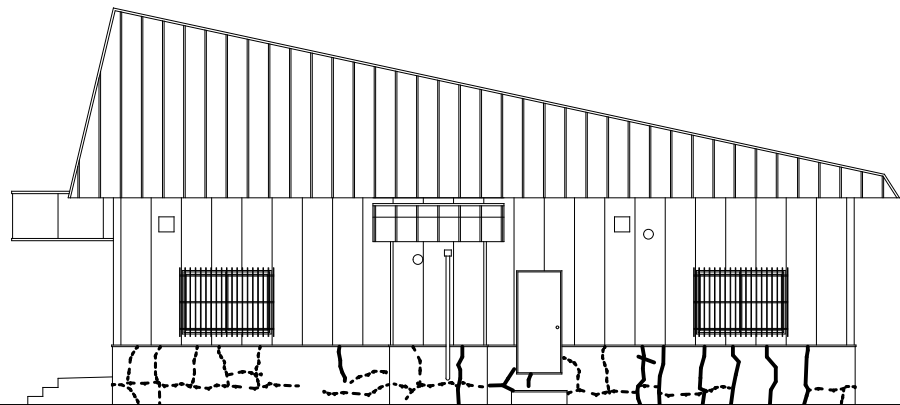
番  
号

A

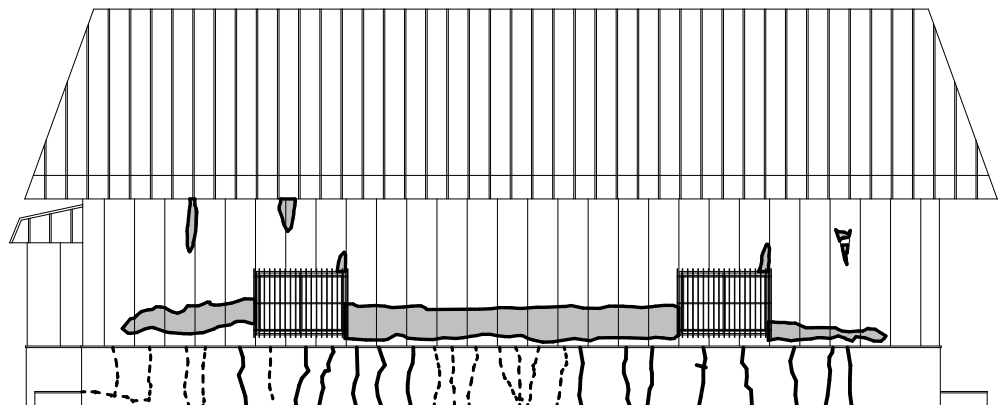
06



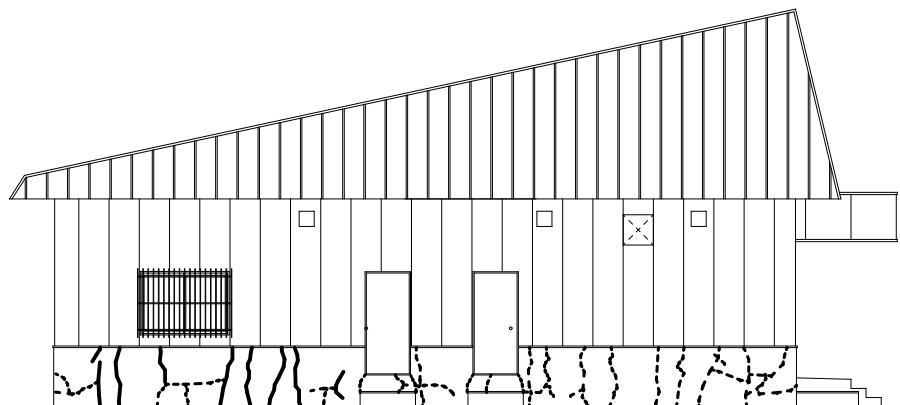
南立面図



東立面図



北立面図



西立面図

記号	腰壁クラック、塗装面劣化現況・補修仕様
	外壁ALC版面・ラスモルタル面の塗装材の浮き・劣化部 全面 塗膜除去(サンダー工法)し、新規塗装に対処する
	ラスモルタル部 クラック 0.2mm以上1.0mm未満 エポキシ樹脂低圧注入工法
	ラスモルタル部 クラック 0.2mm未満 パテ詰め(塗装工事下地処理による)

特記事項

Mori

株式会社

建築設計室

帯広市緑ヶ丘東通東40番地  
TEL (代) 0155-22-1102

一般建築士事務所(十)登録第136号  
一般建築士第158671号 森 義孝

工事名

中島配水場  
耐震補強工事

図名

現況劣化部立面図

縮尺

1/150

日付

2022年6月

検図

番号

番号

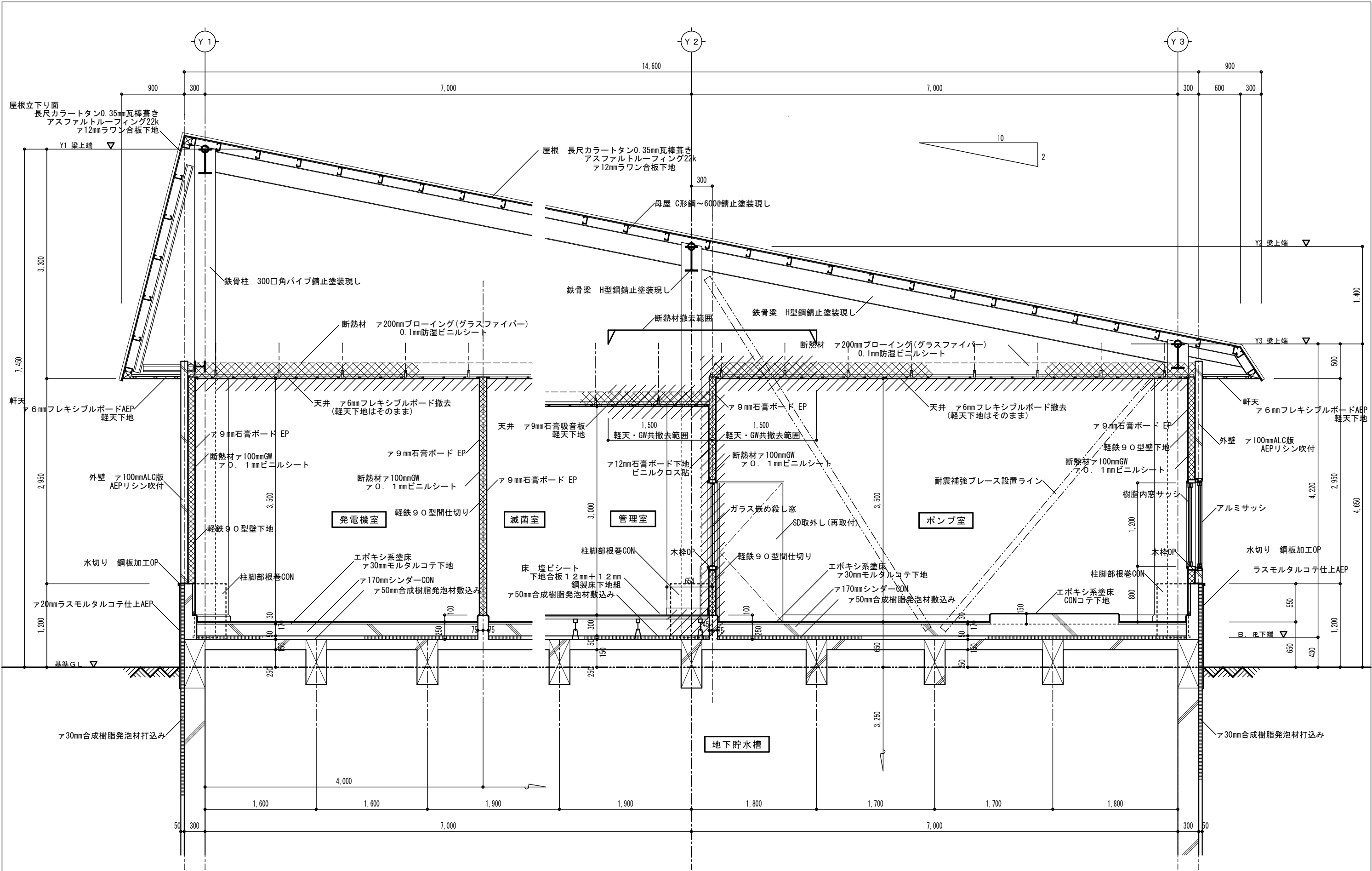
担当

A

製図

07





特記事項

////// 壁面(壁仕上げ・建具・間仕切り下地)の解体範囲を示す。

Mori  
MOHTECH OFFICE

株式  
会社

建築設計室

帯広市緑ヶ丘東通東40番地  
TEL (代) (0155) 22-1102

一級建築士事務所(十)登録第136号

一級建築士第158671号 森 義孝

工事  
名

中島配水場

耐震補強工事

設計図

図名

現況・解体断面図1

縮尺

1/50

日付

2022年6月

番号

検  
図

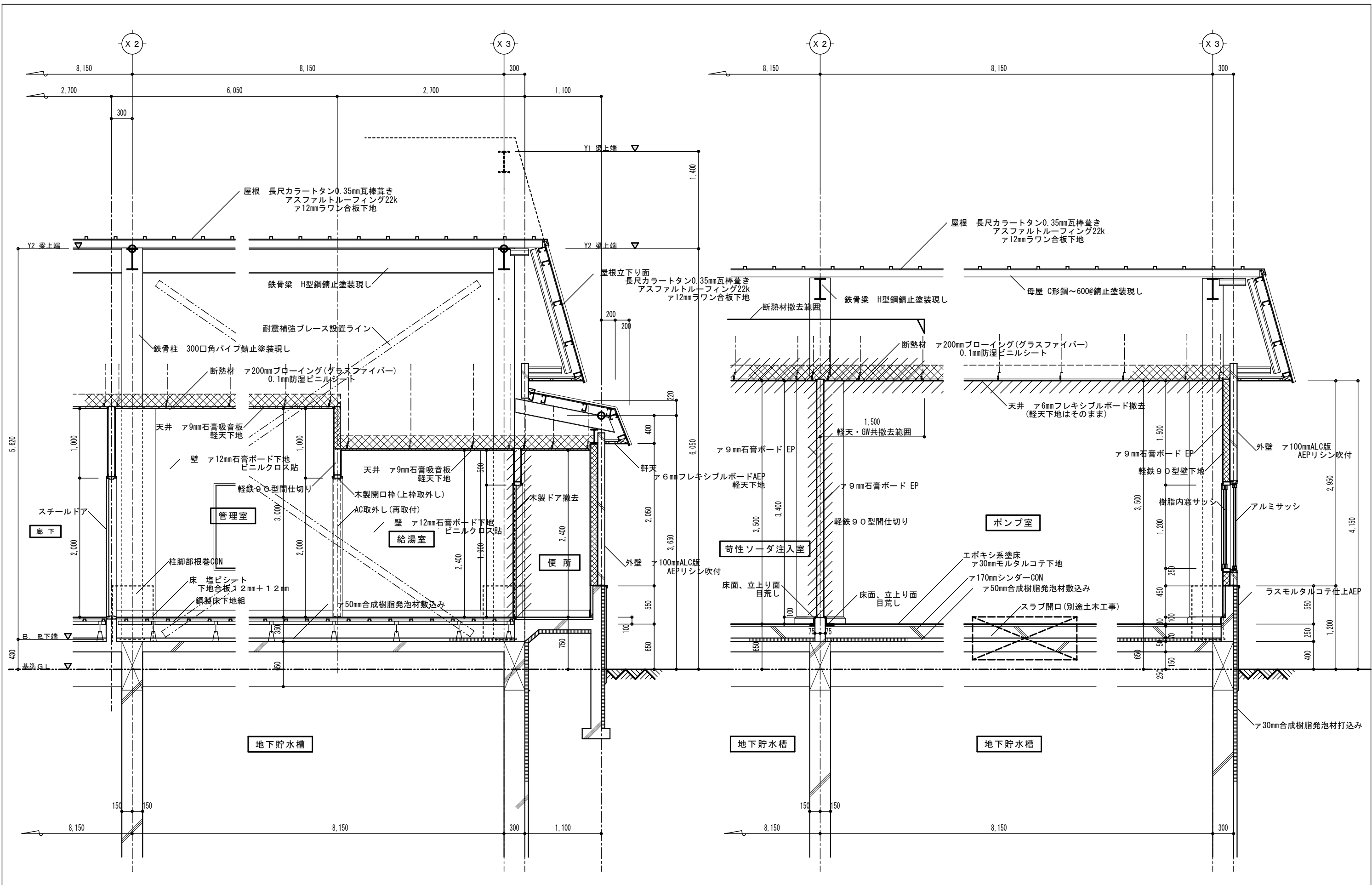
担  
当

製  
図

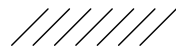
A

—

08



特記事項



壁面(壁仕上げ・建具・間仕切り下地)の解体範囲を示す。

Mori  
ARCHITECT OFFICE

株式会社

建築設計室

帯広市緑ヶ丘東通東40番地  
TEL (TEL) (0155)-22-1102

一級建築士事務所(十)登録第136号

一級建築士第158671号 森 義孝

工事名

中島配水場

耐震補強工事

設計図

検図

担当

製図

図名

現況・解体断面図2

縮尺

1/50

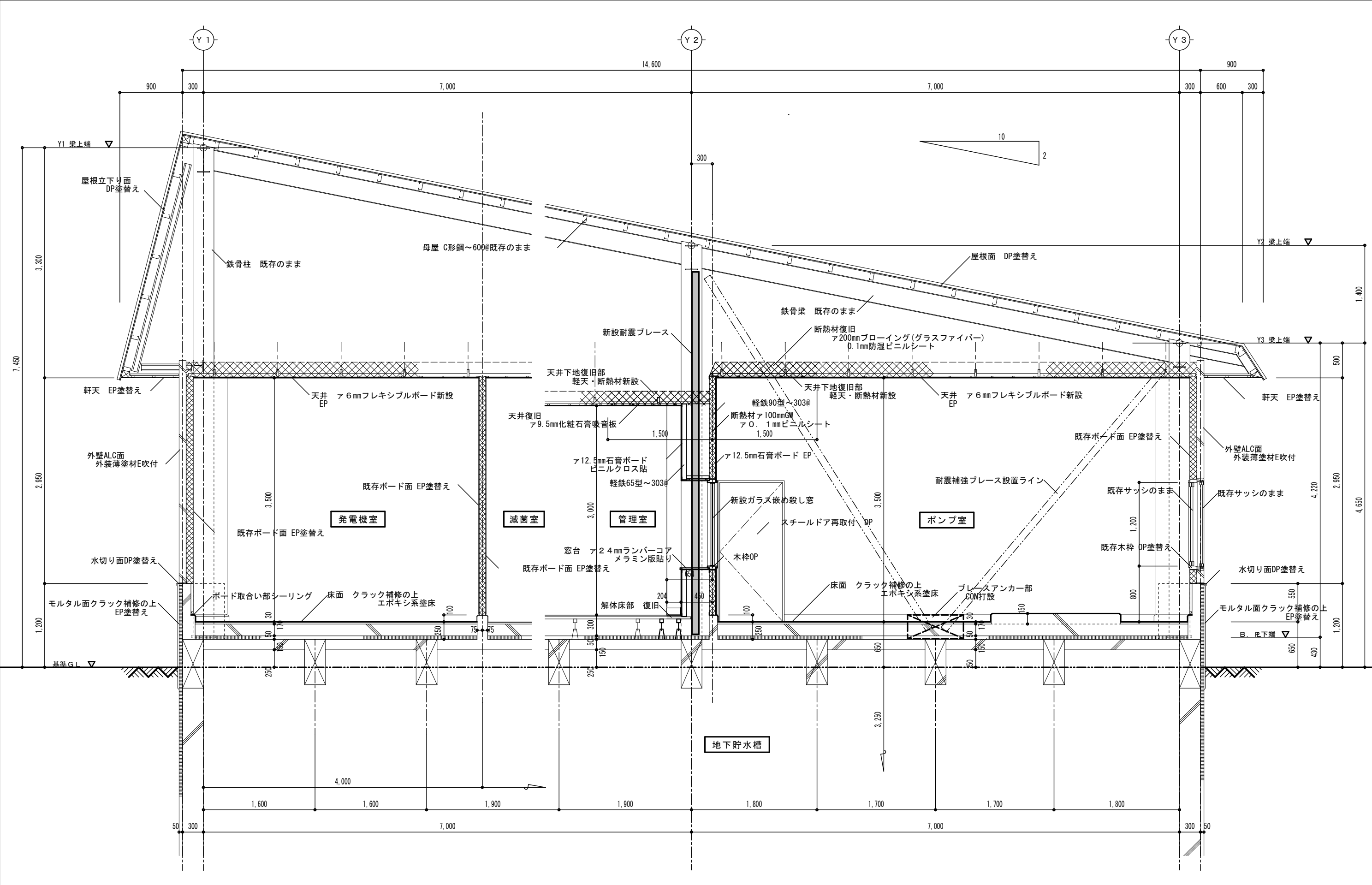
日付

2022年6月

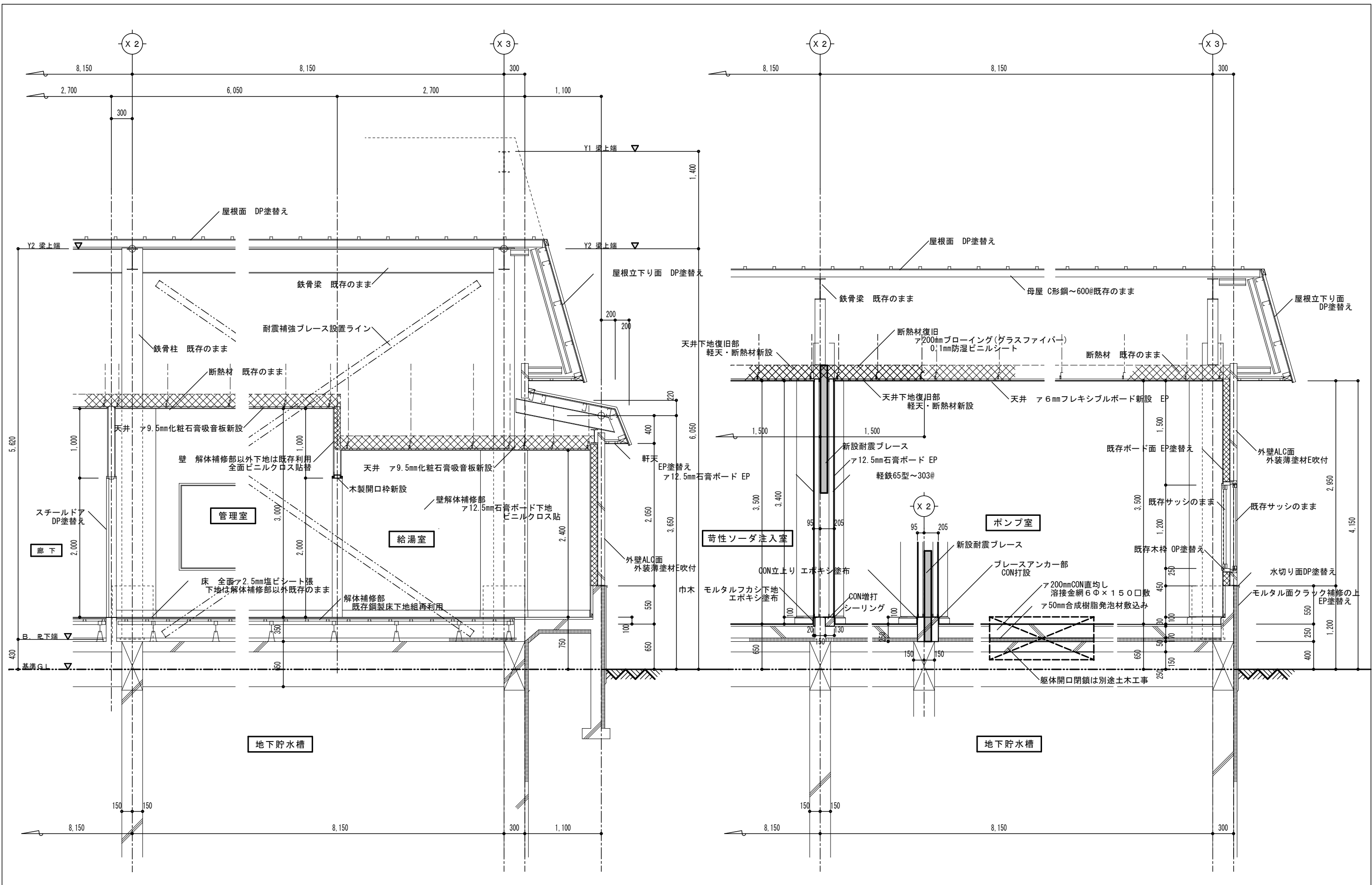
番号

A

09



特 記 事 項	<div>Mori株式会社 MORI 建築設計室</div> <div>帯広市緑ヶ丘東通東40番地 TEL (代) (0155) -22-1102</div>		中島配水場					検 図		担 当		製 図	
			耐震補強工事 設計図										
			一級建築士事務所(十)登録第136号 一級建築士第158671号 森 義孝	図 名	改修断面図 1	縮 尺	1/50	日 付	2022 年 6 月	番 号	A — 10		



特記事項

Mori  
ARCHITECT OFFICE

株式会社

建築設計室

帯広市緑ヶ丘東通東40番地  
TEL (代) (0155) -22-1102

一般建築士事務所 (+) 登録第136号  
一般建築士第158671号 森 義孝

工事名

中島配水場

耐震補強工事

設計図

検図

担当

製図

図名

改修断面図2

縮尺

1/50

日付

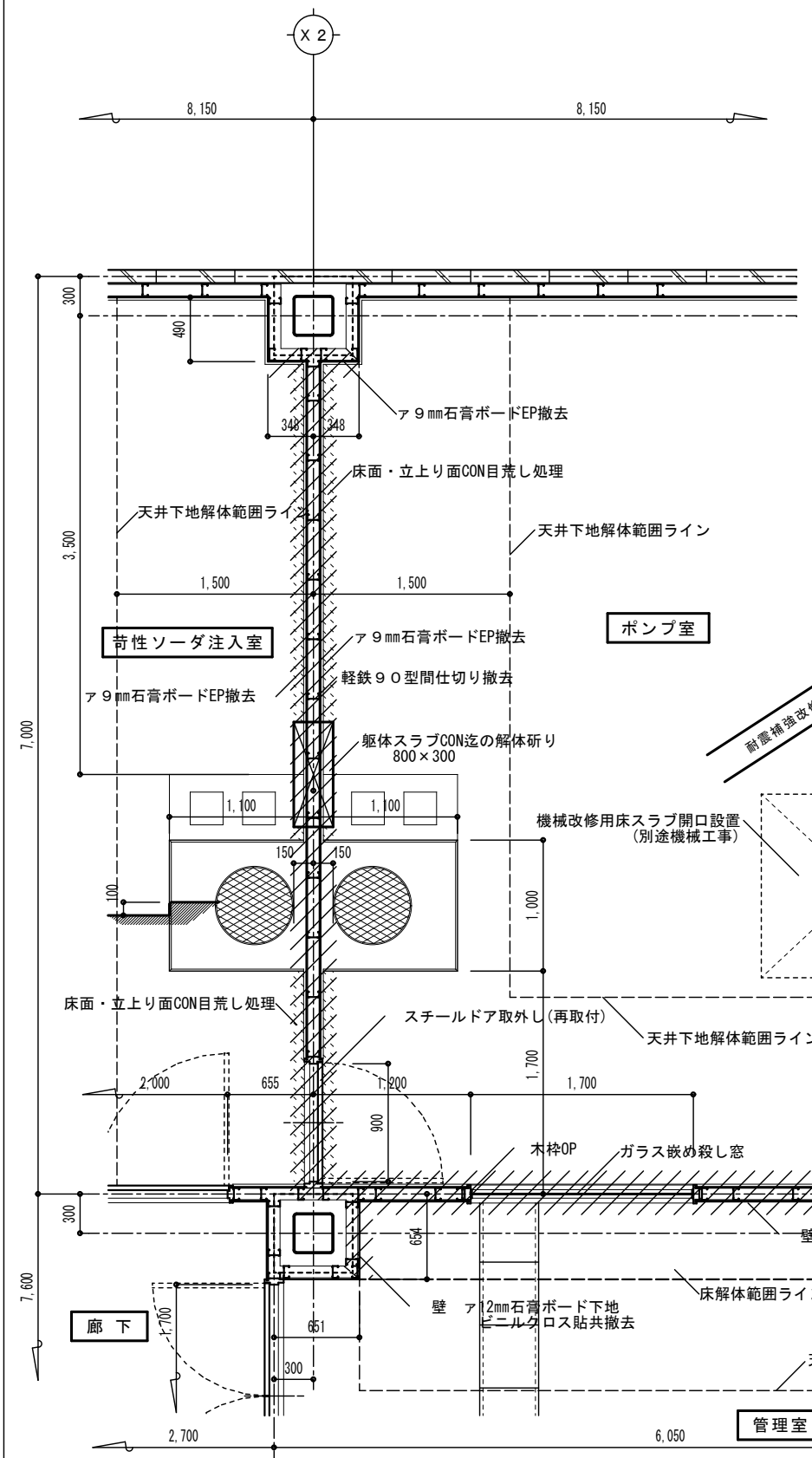
2022年6月

番号

A

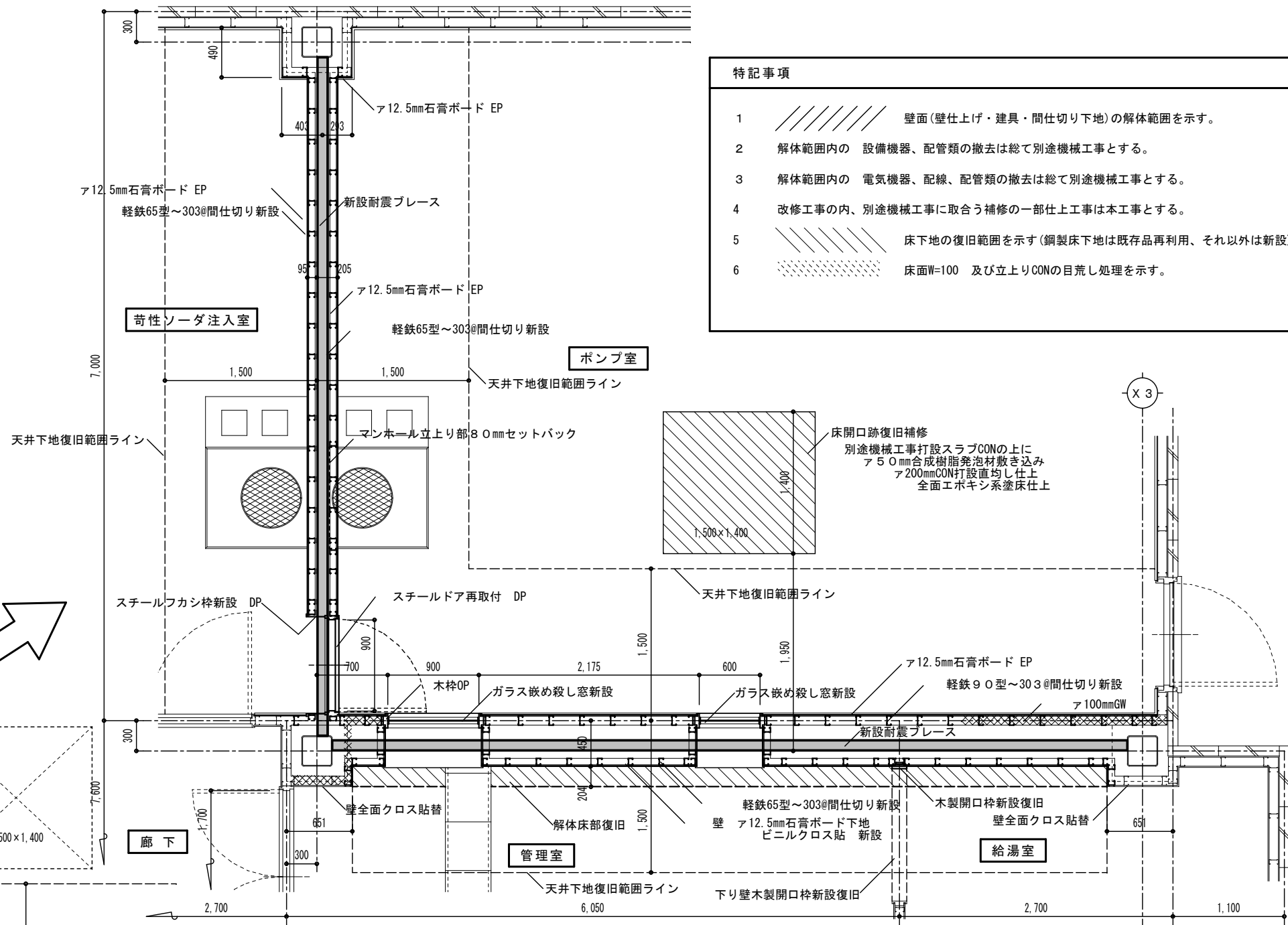
11

解体平面詳細図



特記事項

- 1 壁面(壁仕上げ・建具・間仕切り下地)の解体範囲を示す。
- 2 解体範囲内の 設備機器、配管類の撤去は総て別途機械工事とする。
- 3 解体範囲内の 電気機器、配線、配管類の撤去は総て別途機械工事とする。
- 4 改修工事の内、別途機械工事に取合う補修の一部仕上工事は本工事とする。
- 5 床下地の復旧範囲を示す(鋼製床下地は既存品再利用、それ以外は新設)。
- 6 床面W=100 及び立上りCONの目荒し処理を示す。



改修後平面詳細図

特記事項

Mori 株式会社

建築設計室

帯広市緑ヶ丘東通東40番地  
TEL (代) 0155-22-1102

一級建築士事務所(十)登録第136号

一級建築士第158671号 森 義孝

工事名

中島配水場

耐震補強工事

設計図

図名

解体・改修平面詳細図

縮尺

1/50

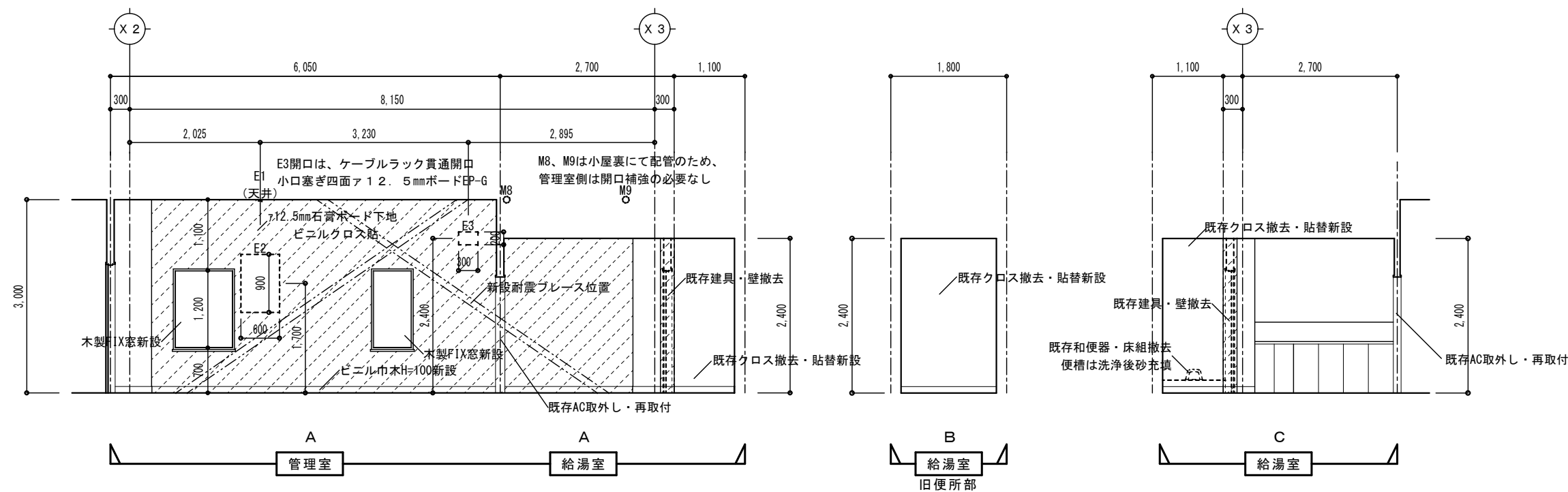
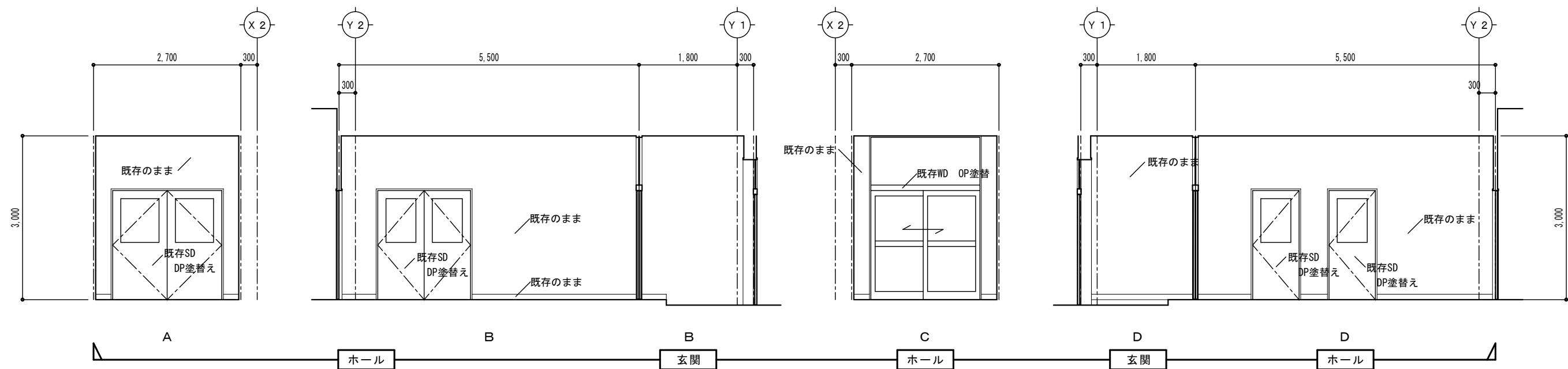
日付

2022年6月

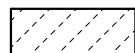
番号

A

12



特記事項



間仕切り壁の撤去・新設部を示す。

Mori  
ARCHITECT OFFICE

株式会社

建築設計室

帯広市緑ヶ丘東通東40番地  
TEL (TEL) (0155)-22-1102

一般建築士事務所(十)登録第136号

一般建築士第158671号 森 義孝

工事名

中島配水場

耐震補強工事

設計図

図名

改修展開図 1

縮尺

1/80

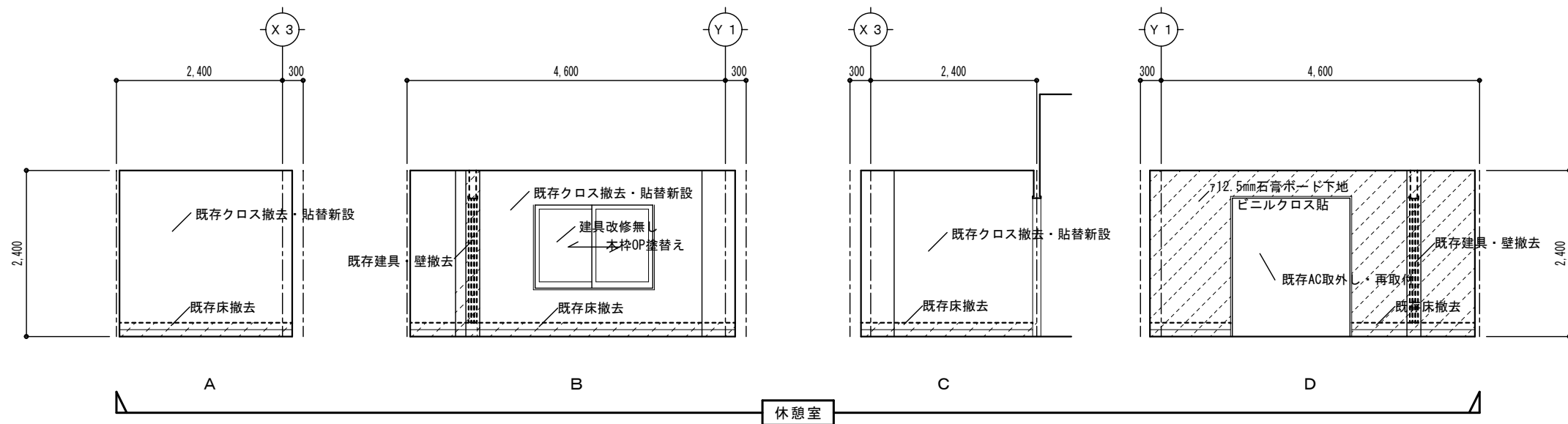
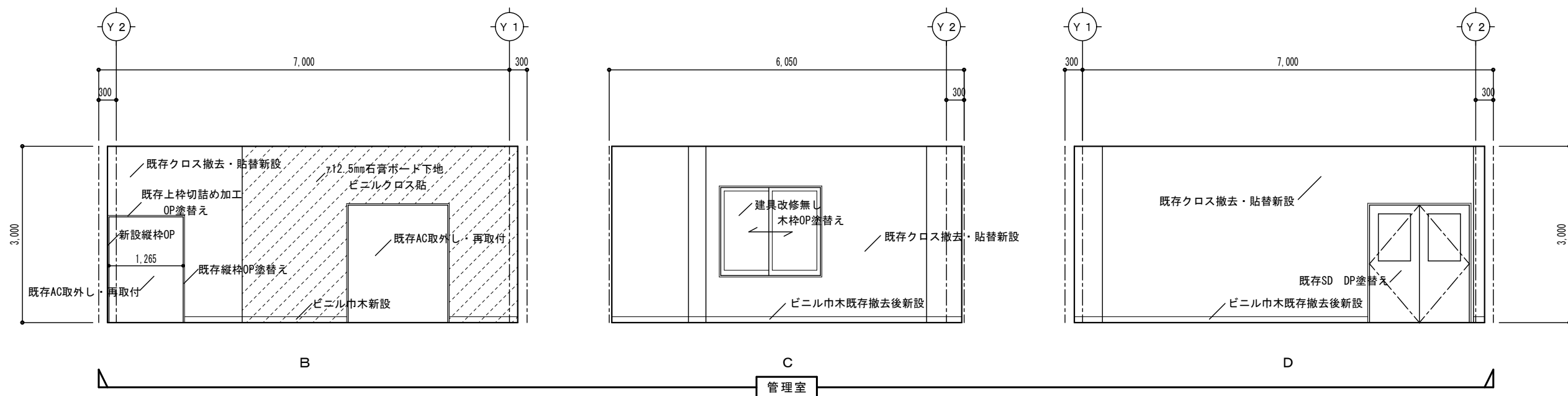
日付

2022年 6月

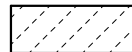
番号

A

13



特記事項



間仕切り壁の撤去・新設部を示す。

Mori  
ARCHITECT OFFICE

株式会社

建築設計室

帯広市緑ヶ丘東通東40番地  
TEL (代) (0155) 22-1102

一般建築士事務所 (十) 登録第136号

一般建築士第158671号 森 義孝

工事名

中島配水場

耐震補強工事

設計図

検図

担当

製図

改修展開図 2

縮尺

1/80

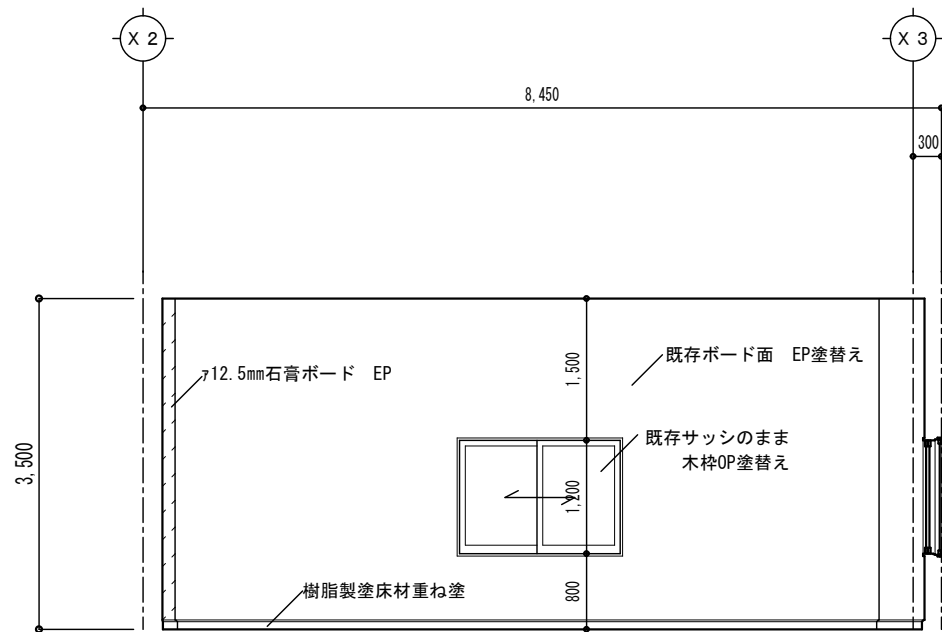
日付

2022年 6月

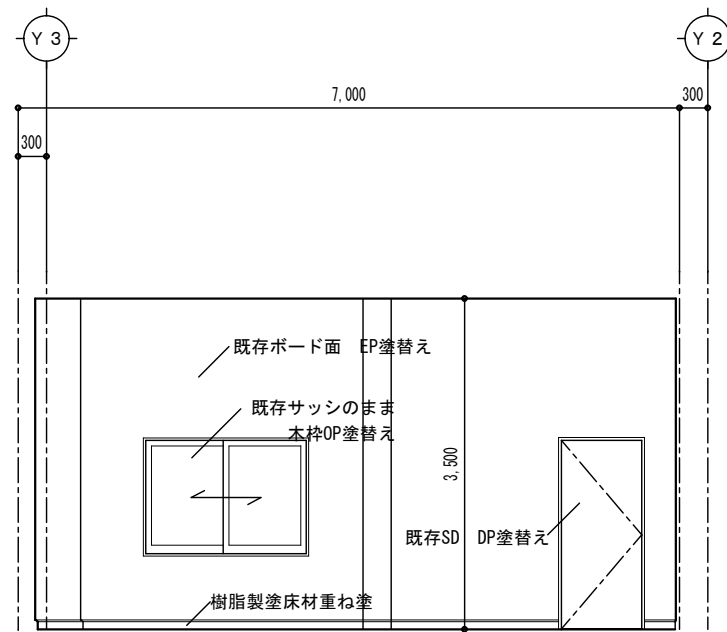
番号

A

14

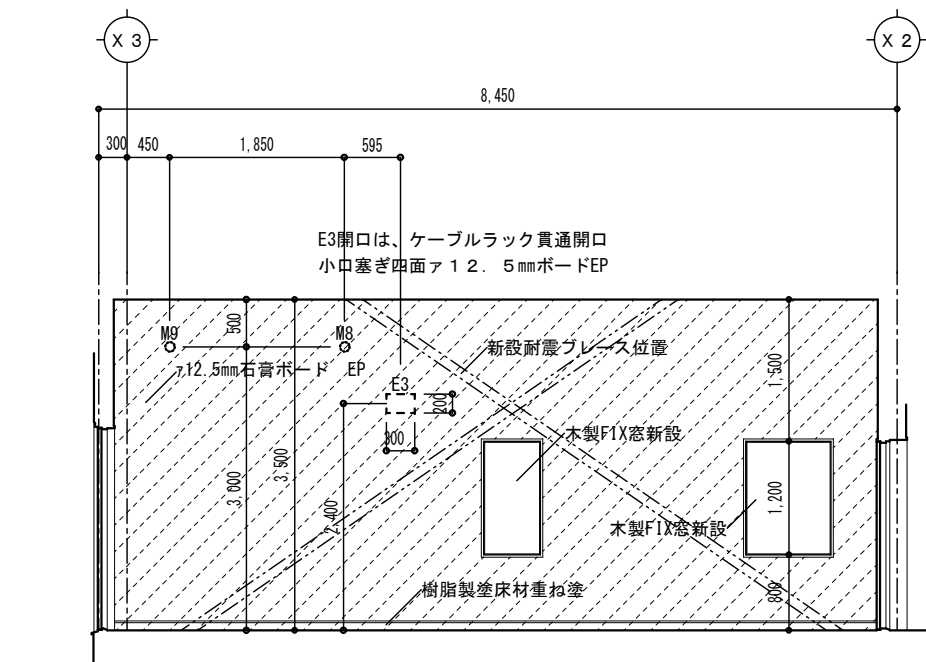


A

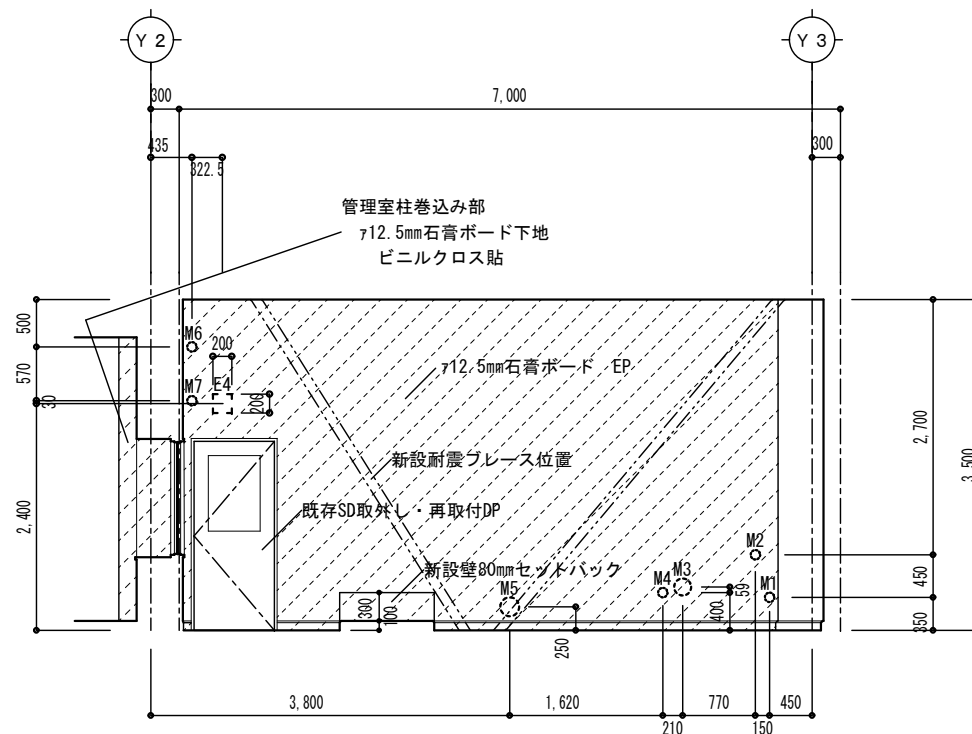


B

ポンプ室



C



D

※ プレースと干渉する為開口補強位置は現地にて協議とする。

電気設備用開口補強

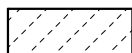
開口補強位置及び開口寸法は図示とする。  
E1のみ50φの天井開口。

機械設備用開口補強

開口補強位置は図示とし、配管径は以下とする。  
但し、M5はプレースと干渉する為開口補強位置は現地にて協議とする。

M1・・・100φ  
M2・・・100φ  
M3・・・180φ  
M4・・・100φ  
M5・・・200φ  
M6・・・100φ  
M7・・・100φ  
M8・・・100φ  
M9・・・100φ

特記事項



間仕切り壁の撤去・新設部を示す。

Mori  
ARCHITECT OFFICE

株式会社

建築設計室

帯広市緑ヶ丘東通東40番地  
TEL (代) (0155)-22-1102

一級建築士事務所(十)登録第136号  
一級建築士第158671号 森 義孝

工事名

中島配水場

耐震補強工事

設計図

検図

担当

製図

図名

改修展開図 3

縮尺

1/80

日付

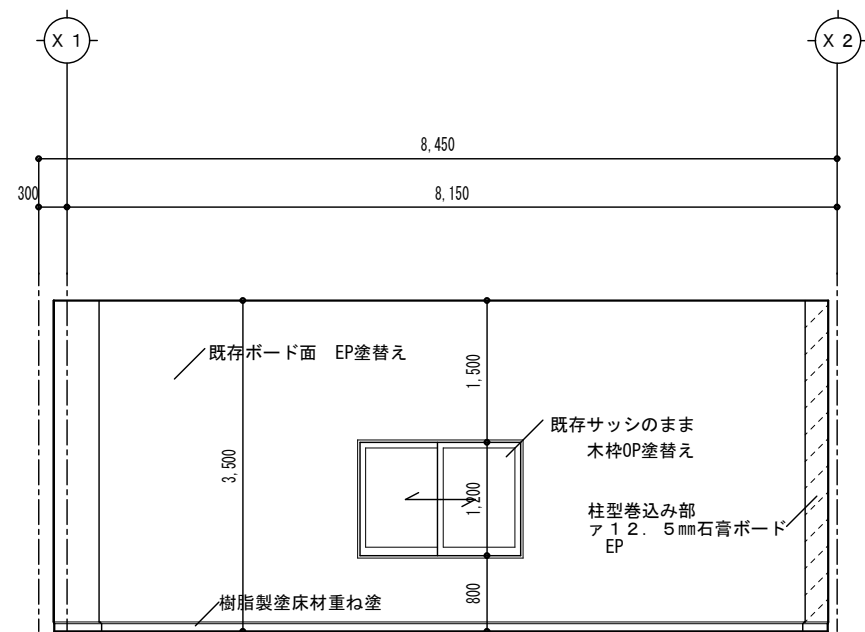
2022年 6月

番号

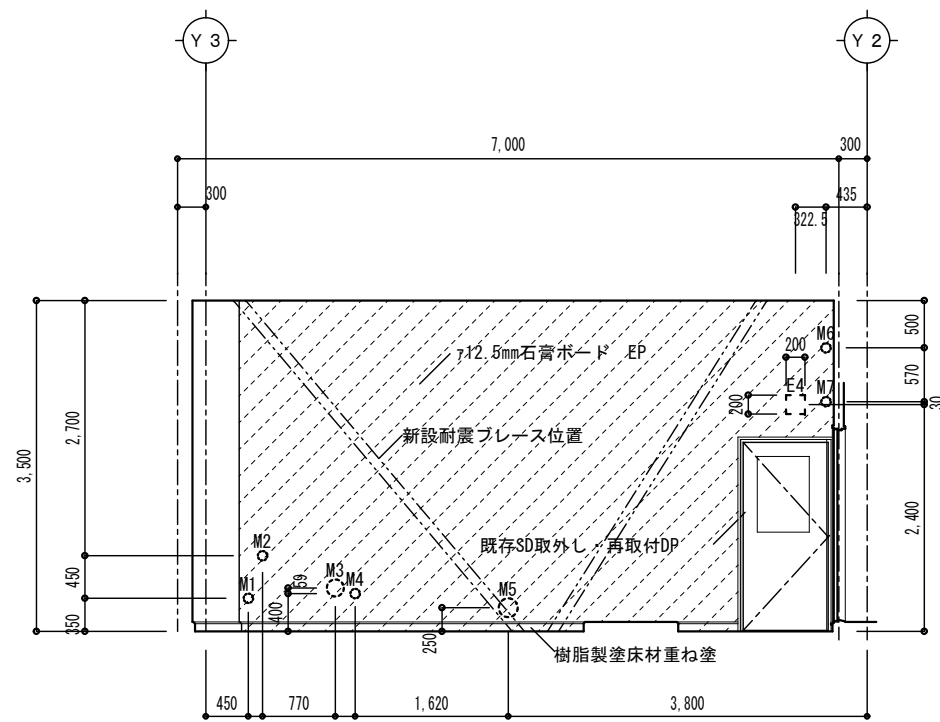
A

15

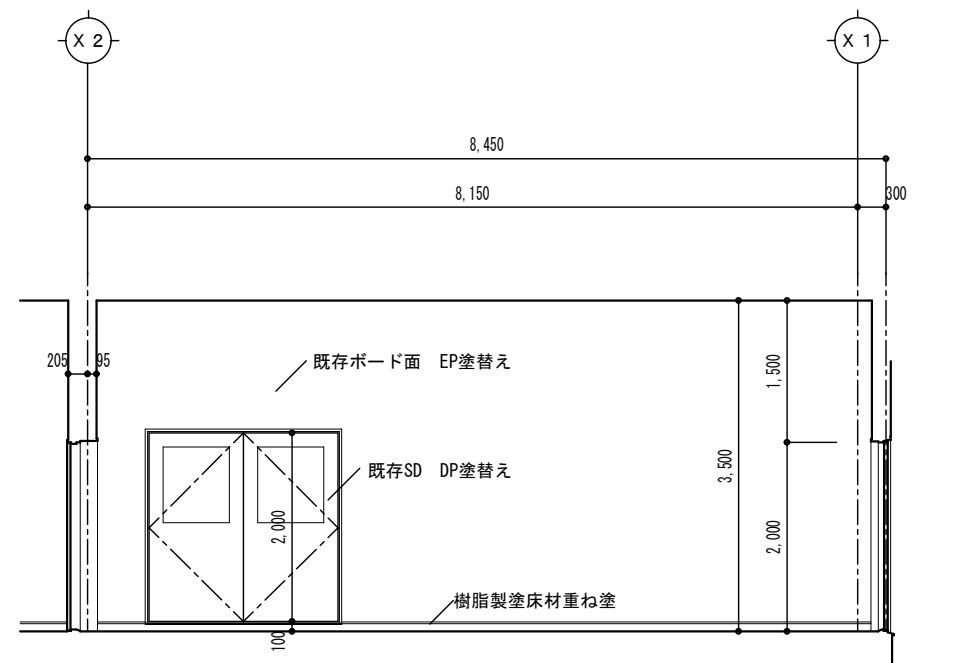




A

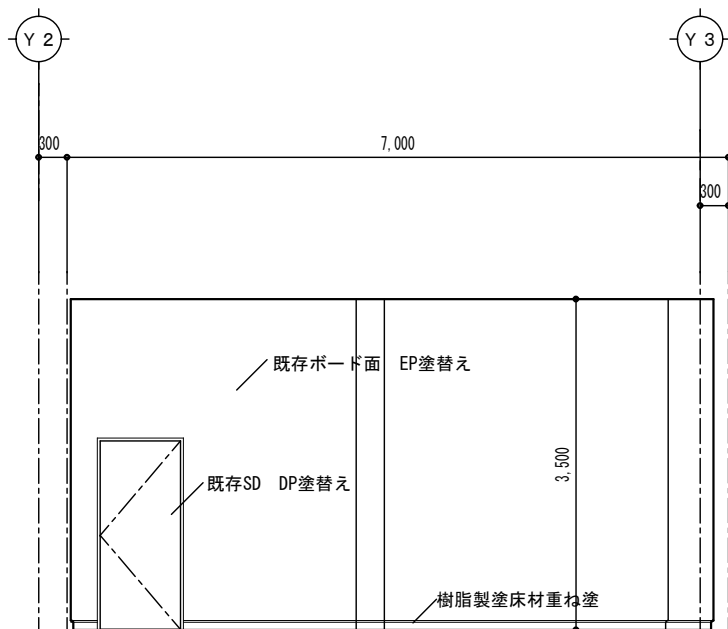


B



C

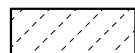
苛性ソーダ注入室



D

苛性ソーダ注入室

特記事項



間仕切り壁の撤去・新設部を示す。

Mori 株式会社

建築設計室

帯広市緑ヶ丘東通東40番地  
TEL (代) (0155)-22-1102

一級建築士事務所(十)登録第136号  
一級建築士第158671号 森 義孝

工事名

中島配水場

耐震補強工事

設計図

図名

改修展開図 4

縮尺

1/80

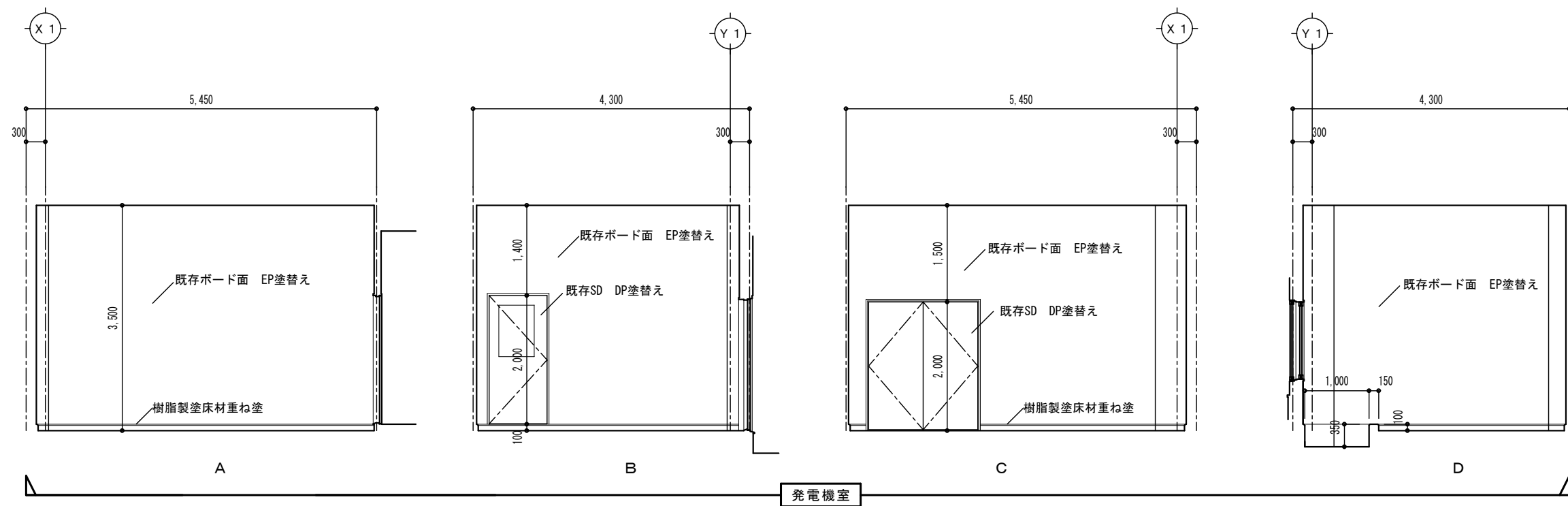
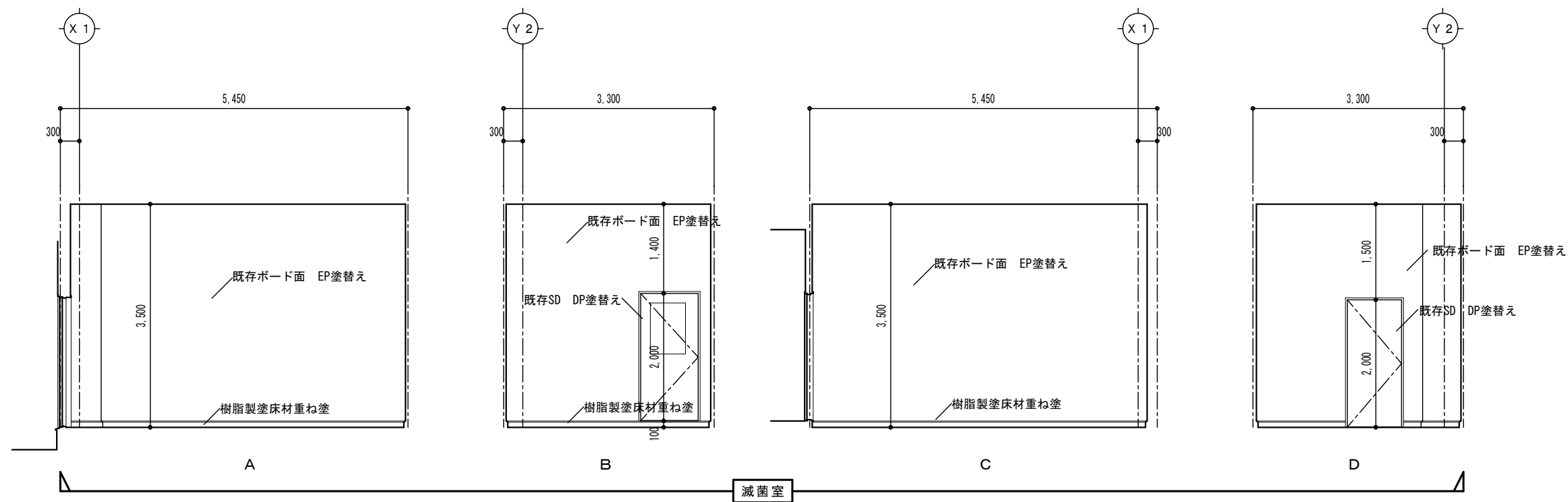
日付

2022年 6月

番号

A

16



特記事項

Mori 株式会社

建築設計室

帯広市緑ヶ丘東通東40番地  
TEL (代) 0155-22-1102

一級建築士事務所(十)登録第136号  
一級建築士第158671号 森 義孝

工事名

中島配水場

耐震補強工事

設計図

検図

担当

製図

図名

改修展開図 5

縮尺

1/80

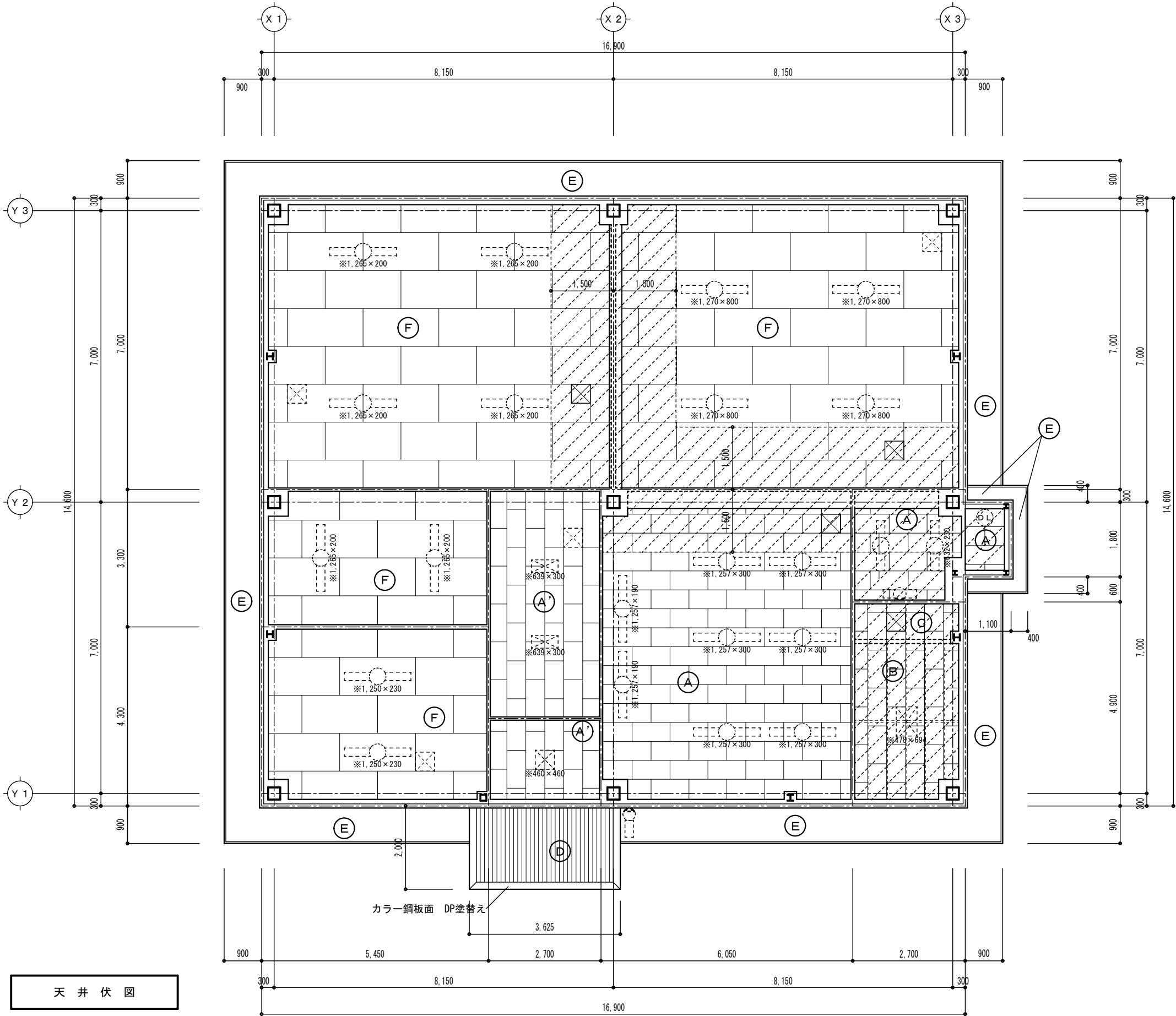
日付

2022年 6月

番号

A

17



記 号	仕 上 ・ 仕 様 ・ 下 地
(A')	既存79mm石膏吸音板の上、EP
(A)	79mmジブトーン撤去後79.5mm化粧石膏吸音板(ジブトーン)不燃材 解体復旧部は、79.5mm化粧石膏吸音板(ジブトーン)不燃材
(B)	79mmテンバック(杉桎背焼石膏ボード)張解体、軽天の解体後 軽天復旧、79.5mm化粧石膏吸音板(ジブトーン)不燃材 天井改め口450口新設
(C)	79mm石膏ボード張解体、軽天の解体後 軽天復旧、79.5mm化粧石膏吸音板(ジブトーン)不燃材
(D)	70.4mmカラー鋼板スバンドレル DP塗替え
(E)	76mmフレキシブルボードEP EP塗替え
(F)	既存76mmフレキ(アスベスト含有)撤去 76mmフレキシブルボード新設(軽天は既存利用) EP
	仕上げ材解体、軽天の解体 復旧部分を示す。 7200mmブローイング、防湿シートの解体・復旧部分を示す。
	天井改め口450口 既存品撤去後新設
	既存天井改め口450口再利用
	既存蛍光灯(※開口寸法) 既存品一時取外し後再取付
	既存天井灯(※開口寸法) 既存品一時取外し後再取付
	既存ダウンライト 既存品一時取外し後再取付

※ 天井解体部の塩ビ見切りは新設とし、  
フレキシブルボード張り替え部の見切りは既存利用とする。

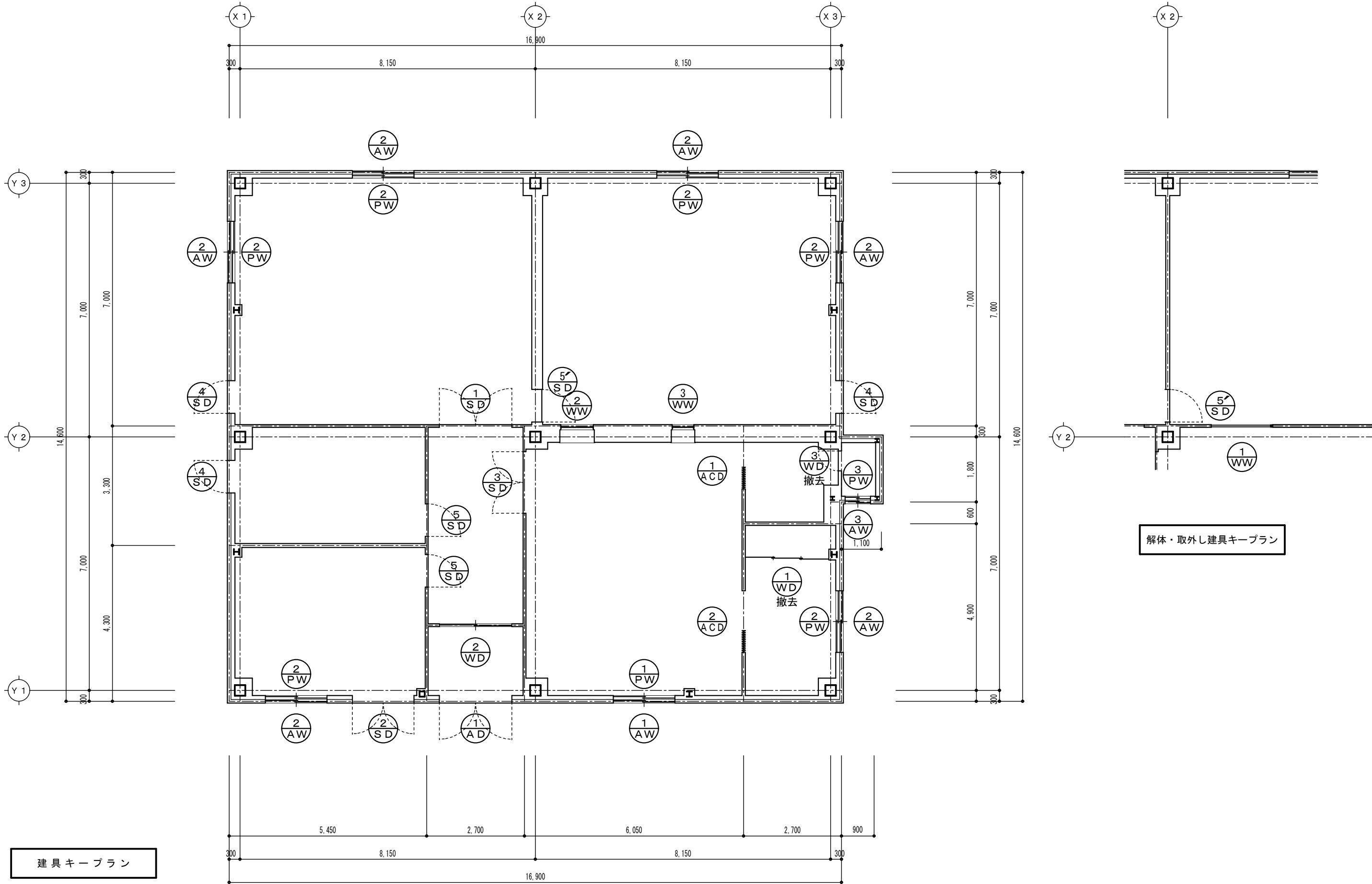
※ 照明器具は、取外し・再取付とする。

天 井 伏 図

特 記 事 項

Mori 株式会社 建築設計室  
帯広市緑ヶ丘東通東40番地  
TEL (代) (0155) -22-1102  
一級建築士事務所(十)登録第136号  
一級建築士第158671号 森 義 孝

工 事 名	中 島 配 水 場	検 図		担 当		製 図	
図 名	耐 震 補 強 工 事	設 計 図					
改 修 天 井 伏 図	縮 尺	1/100	日 付	2022 年 6 月	番 号	A	18

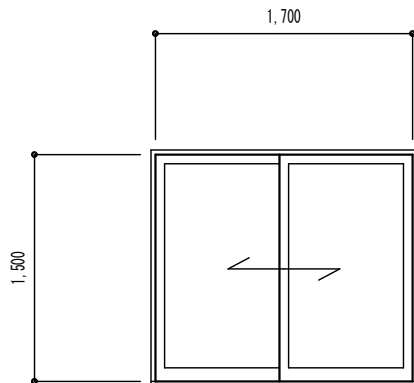
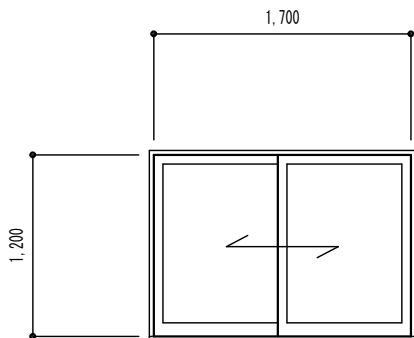
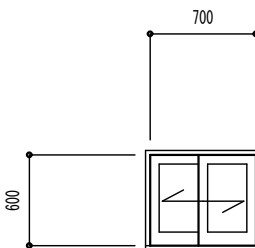
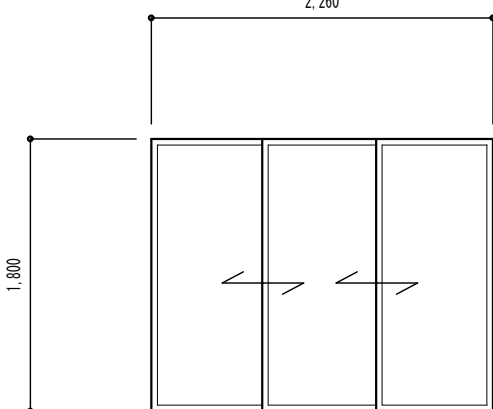
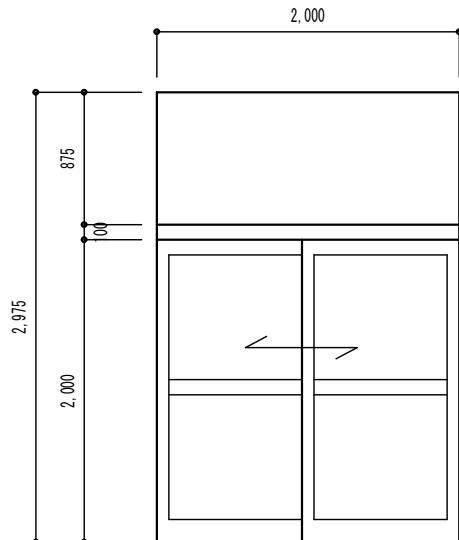


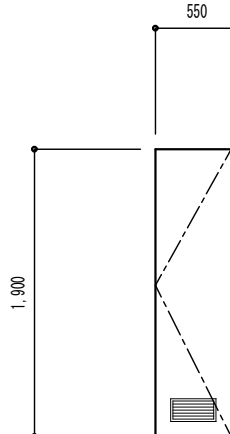
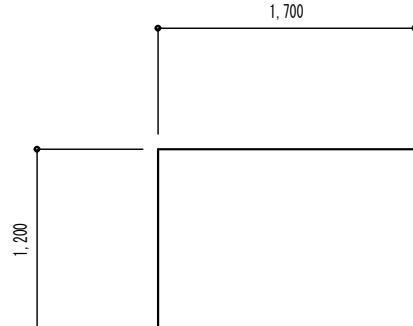
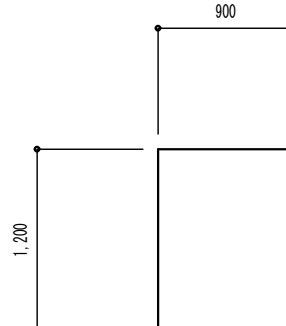
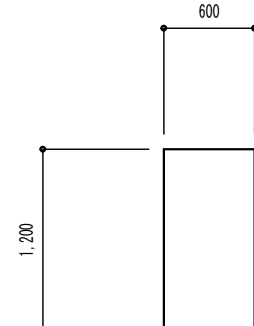
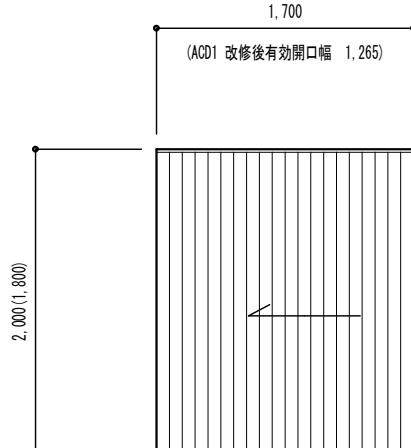
特 記 事 項	<div>Mori株式会社 Mori 建築設計室</div> <div>帯広市緑ヶ丘東通東40番地 TEL (代) (0155) -22-1102</div>		工 事 名					中島配水場		検 図		担 当		製 図	
			耐震補強工事					設計図							
	一級建築士事務所 (十) 登録第136号 一級建築士第158671号 森 義 孝		図 名	建具キープラン		縮 尺	1/100	日 付	2022 年 6 月	番 号	A — 19				

符 号	<div><div>1</div><div>SD</div></div> 1カ所	<div><div>2</div><div>SD</div></div> 1カ所	<div><div>3</div><div>SD</div></div> 1カ所	<div><div>4</div><div>SD</div></div> 3カ所	<div><div>5</div><div>SD</div></div> 2カ所
姿 図					
型 式	既存のまま スチール両開きドア		既存のまま スチール両開き断熱ドア		既存のまま スチール片開き断熱ドア
材 種 見 込	既存のまま 銅板両面フラッシュ 見込 枠100mm 戸40mm		全 左		全 左
仕 上	現OP → DP塗替え		全 左		全 左
ガ ラ ス	既存のまま FL5mm		既存のまま FL5mm		既存のまま FL5mm
金 物	総て既存のまま 丁番 DC CL フランス落し		総て既存のまま 丁番 DC CL フランス落し AT		総て既存のまま 丁番 DC CL

符 号	<div><div>5</div><div>SD</div></div> 1カ所	<div><div>1</div><div>AD</div></div> 1カ所	<div><div>1</div><div>AW</div></div> 1カ所	<div><div>2</div><div>AW</div></div> 6カ所	<div><div>3</div><div>AW</div></div> 1カ所
姿 図					
型 式	スチール片開きドア 取外し再取付	既存のまま アルミランマ付き両開きドア	既存のまま アルミ引違断熱サッシ	全 左	全 左
材 種 見 込	既存のまま 銅板両面フラッシュ 見込 枠100mm 戸40mm	既存のまま アルミ 見込 枠100mm	既存のまま アルミ 見込 枠100mm	全 左	全 左
仕 上	現OP → DP塗替え	既存のまま アルミシルバー	既存のまま アルミシルバー	全 左	全 左
ガ ラ ス	既存のまま FL5mm	既存のまま FL5mm	既存のまま FL5mm-A6 -PG6. 8mm	全 左	全 左
金 物	丁番 DC CL 既存のまま 三方フカシ額縁 (W=185) 新設取付	既存押し板撤去後 同品新設、FHステンレスカバー新設 その他は、既存のまま DC CL フランス落し 水切り	総て既存のまま クレセント 網戸	全 左	全 左

特 記 事 項			<div>Mori株式会社 建築設計室</div> <div>帯広市緑ヶ丘東通東40番地 TEL (代) (0155) -22-1102</div> <div>一級建築士事務所 (十) 登録第136号 一級建築士第158671号 森 義 孝</div>			工 事 名	中島配水場 耐震補強工事			検 図		担 当		製 図	
			図 名	建具表 1	縮 尺	1/50	日 付	2022 年 6 月	番 号	A — 20					

符 号	<div><div>1</div><div>PW</div></div> 1カ所	<div><div>2</div><div>PW</div></div> 6カ所	<div><div>3</div><div>PW</div></div> 1カ所	<div><div>1</div><div>WD</div></div> 1カ所	<div><div>2</div><div>WD</div></div> 1カ所
姿 図	<div><p>※ 既存木枠OP塗替え</p></div>	<div><p>※ 既存木枠OP塗替え</p></div>	<div><p>※ 既存木枠OP塗替え</p></div>	<div><p>※ 撤去</p></div>	<div><p>※ 建具 擦り調整</p></div>
型 式	既存のまま 樹脂製引違内窓サッシ	全 左	全 左	解体撤去 木製3枚建て襖戸	既存のまま 木製ランマ付き引違戸
材 種 見 込	既存のまま プラスチック樹脂 見込53mm	全 左	全 左	合板片面フラッシュ30mm	既存のまま 木製框戸36mm
仕 上	既存のまま ホワイト色	全 左	全 左	襖紙貼り	現OP → SOP塗替え
ガ ラ ス	既存のまま FL3mm	全 左	全 左	_____	既存のまま FL5mm
金 物	総て既存のまま	全 左	全 左	_____	既存のまま

符 号	<div><div>3</div><div>WD</div></div> 1カ所	<div><div>1</div><div>WW</div></div> 1カ所	<div><div>2</div><div>WW</div></div> 1カ所	<div><div>3</div><div>WW</div></div> 1カ所	<div><div>1</div><div>ACD</div></div> 1カ所	<div><div>2</div><div>ACD</div></div> ()内1カ所
姿 図	<div><p>※ 撤去</p></div>	<div></div>	<div></div>	<div></div>	<div><p>(ACD1 改修後有効開口幅 1,265)</p></div>	
型 式	解体撤去 木製片開き戸	解体撤去 木製Fixガラス窓	新設建具 木製Fixガラス窓	全 左	既存アコーディオンカーテン 取外し、再取付	
材 種 見 込	化粧合板両面フラッシュ 見込36mm	枠見込130mm	青木枠見込130mm	全 左	既存のまま	
仕 上	メラミン合板	_____	OP	全 左	全 左 (既存枠も塗替え)	
ガ ラ ス	既存のまま	撤去 FL5mm	撤去 FL5mm	全 左	_____	
金 物	既存のまま	_____	木製押縁とめ	全 左	既存のまま	

特 記 事 項			<div><div>Mori</div><div>株式会社</div><div>電 建築設計室</div><div>帯広市緑ヶ丘東通東40番地 TEL (代) 0155)-22-1102</div><div>一級建築士事務所(十)登録第136号 一級建築士第158671号 森 義 孝</div></div>			工 事 名	中島配水場 耐震補強工事			検 図		担 当		製 図	
						図 名	建具表 2	縮 尺	1/50	日 付	2022 年 6 月	番 号	A — 21		

# 構造設計標準仕様

適用は ■ 印を記入する。

## ①. 建築物の構造内容

- (1) 工事名称 中島配水場耐震補強工事  
建築場所 北海道帯広市中島町東4線120-6
- (2) 工事種別 □新築----□増築----□増改築--□改築---■耐震補強-----
- (3) 構造種別  
□木造 (W) □補強コンクリートブロック造 (CB) ■鉄骨造(S)  
□鉄筋コンクリート造(RC) □壁式鉄筋コンクリート造(WRC)  
□鉄骨鉄筋コンクリート造(SRC) □壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造(WPRC)  
□プレキャスト鉄筋コンクリート造(PRC) □
- (4) 階数  
地下 階 地上 1階 塔屋
- (5) 主要用途 水道施設
- (6) 屋上付属物  
□高架水槽 kN □キュービクル kN □広告塔 □煙突
- (7) 特別な荷重  
□エレベータ 人乗(ロープ式 油圧式) □天井走行クレーン kN
- (8) 付帯工事  
□門塙 □擁壁 □ □ □
- (9) 増築計画 □有 ( ) ■無
- (10) 構造計算ルート X方向ルート Y方向ルート

## ②. 使用構造材料

### (1) コンクリート

適用箇所	種類	設計基準強度 F <sub>c</sub> =N/mm <sup>2</sup>	調合管理強度 N/mm <sup>2</sup>	スラブ cm	備考
捨てコンクリート	普通				
土間コンクリート	普通				
基礎、基礎梁	普通				
補修コンクリート	普通	21	24	18	
混和剤					

### (2) コンクリートブロック (CB)

□ A種 □ B種 □ C種 厚 □100 □120 □150 □190

### (3) 鉄筋

	種類	径	使用箇所	継手工法
異形鉄筋	■SD295A	D-10、13	補修部分	■重ね継手
	□SD295B			
	□SD345			□ガス圧接継手
	□			
高強度せん断補強筋	□			□特殊継手
丸鋼	□SR235			( )
溶接金網 (JIS G 3551)	■	6φ×150□		

### (4) 鉄骨

種類	使用箇所	現場溶接	備考
■SS400 □SM400 ■SN400A、B、C	補強部材	□有 □無	
□STKR400 □STKR490 □STK400		□有 □無	
□BCR295 □BCP235 □		□有 □無	
□SM490A □SN490B、C □		□有 □無	
□SSC400 □		□有 □無	

○使用箇所の詳細については別途図示とする。

### (5) ボルト

#### ■高力ボルト

■普通: F10T ■特殊: S10T 認定品 (□M12 □M16 ■M20 □M22 □M24)  
□溶融亜鉛めっき高力ボルト (□M16 □M20 □M22 □M24)

高力ボルトすべり係数試験 □要 □否  
高力ボルト導入張力確認試験 □要 □否

#### □アンカーボルト

□ABR400 M L= mm ナット (□シングル、□ダブル)  
□ M L= mm ナット (□シングル、□ダブル)

#### □頭付スタッド (詳細図による)

φ= L= mm 使用箇所 (□柱 □大梁 □小梁)

#### ■あと施工アンカー

接着系アンカー M22

### (6) 屋根、床、壁

□ALC板 厚 H=160 厚 0.8  
□折版  
□デッキプレート 型式 厚  
□特殊デッキプレート Q.L99-50-12

## 3. 地盤

### (1) 地盤調査資料

□有 (□敷地内 □近隣) □スウェーデン式サウンディング試験  
□ボーリング調査 □平板載荷試験 □水平地盤反力係数の測定  
□土質試験 □液化化判定 □現場透水試験 □土質試験

□無 (調査予定 □有 □無)

### (2) 地盤調査計画

□ボーリング調査 □静的貫入試験 □標準貫入試験 □水平地盤反力係数の測定  
□土質試験 □物理調査 □平板載荷試験 □

### (3) 地盤調査及び試験杭の結果により、長杭、杭種、直接基礎の深さ、形状を変更する場合もある

### (4) ボーリング標準貫入値、土質構成 (基礎・杭の位置を明記すること)

深 度	土質 値	標準貫入試験						備考
		10	20	30	40	50	60	
								○調査地盤
								○位置図
								○支持地盤、地層及び深さについてのコメント
								○孔内水位 G.L. m
								○近隣データの調査地盤と設計地盤とは約 mの距離がある
								○備考

## 4. 地業工事

### (1) 直接基礎

□ベタ基礎 □布基礎 □独立基礎 試験掘 □有 □無  
深さ G.L. m 支持層 -  
長期許容支持力度 kN/m<sup>2</sup> 載荷試験 □有 □無

### (2) 基礎杭 支持層

杭種	材料	施工法	備考
□RC □PC	PRC (□I種□II種□III種)	□打ち込み	
□PHC □H鋼	PHC (□A種□B種□C種)	□埋込み(セメントミルク工法)	
□鋼管 □摩擦杭	鋼材 □SS400 ■S11M00	□	
□PHC節杭			大臣認定 平成 年 月 日
□場所打ち コンクリート杭	コンクリート F <sub>c</sub> = N/mm <sup>2</sup> スラブ セメント量 cm 鉄筋 主筋 SD390 HOOP SD	□オールケーシング □底座杭 □リバースキュレーション □アースドリル □ミニアース □BH □梁掘 □手掘 □機械掘	底座杭 日本建築学会認定 第 年 月 日

杭仕様 □施工計画書承認 □杭施工結果報告書

試験杭 (□有、□無) (□打ち込み □載荷) ■

杭径 (mm)	設計支持力 (kN)	杭の先端の深さ (m)	本数	特記事項

## ⑤. 鉄筋コンクリート工事

### (1) コンクリート

□コンクリートはJIS認定工場の製品とし施工に関してはJASS5(2015)による。  
□セメントは、JIS R5210の普通ポルトランドセメントを標準とする。  
□調合計画は、工事開始前に工事監理者の承認を得ること。  
□コンクリートの調合管理強度は、設計基準強度(F<sub>c</sub>)に、次表の構造体強度補正值(S)を加えた値以上とする。  
構造体強度補正值(S)は、下表により、セメントの種類及びコンクリートの打込みから材齢28日までの予想平均気温に応じて定める。

構造体強度補正值(S)の標準値		
セメントの種類	コンクリート打込みから材齢28日までの 予想平均気温θの範囲 (℃)	
普通ポルトランドセメント 混合セメントのA種	8 ≤ θ	0 ≤ θ < 8
早強ポルトランドセメント	5 ≤ θ	0 ≤ θ < 5
構造体強度補正值(S) (N/mm <sup>2</sup> )	3	6

□寒中、暑中、その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に当る場合は、調査、打ち込み、養生、管理方法など必要事項について、工事監理者の承認を得ること。

□フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で(財)国土開発技術研究センターの技術評価をうけた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を一回の測定ごとに撮影した写真(カラー)を保管し承認を得る。  
測定検査の回数は、通常の場合、1日1回以上とし、1回の検査における測定試験は、同一試料から取り分けて3回行い、その平均値を試験値とする。

□構造体コンクリートについては、現場の圧縮強度試験供試体(JASS5T-603)は、現場水中養生、または現場封かん養生とし、採取は打ち込み工区ごと、打ち込み日ごととする。また、打ち込み量が150mをこえる場合は150mごとまたは、その端数ごとに1回を標準とする。1回に採取する供試体は、適当な間隔をおいた3台の運搬車からその必要本数を採取する。なお、供試体の数量は、特別指示なき場合は、1回当たり6本以上とし、そのうち4週用に3本を用いる。

□ポンプ打ちコンクリートは、打ち込む位置にできるだけ近づけて垂直に打ち、コンクリートの自由落下高さは、コンクリートが分離しない範囲とする。ポンプ圧送に際しては、コンクリート圧送技士または同等以上の技能を有する者が従事すること。なお、打ち込み継続中における打継ぎ時間間隔の限度は、輸送時間が約1時間の場合外気温が25℃未満の場合は150分、25℃以上の場合は120分以内とする。

### (2) 鉄筋

□鉄筋は、JIS G3112の規格品とする。JIS G3117の再生鋼を使用する時は管理者の承認を得ること。施工はJASS5(2015)による。  
□高強度せん断補強筋は、JIS G 3137に規定されるD種1号適合品とする。  
□鉄筋の加工寸法、形状、かぶり厚さ、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さは「鉄筋コンクリート構造配筋基準図(1)(2)」または「壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)(2)」による。  
□D19未満は、すべて重ね継手とする。継手(D19以上)をガス圧接とする場合は、公益法人日本鉄筋継手協会「鉄筋のガス圧接工事標準仕様書」による。  
□ガス圧接部の抜き取り検査は、同一作業班が同一日に施工した圧接箇所ごと(200箇所を超えときは、200箇所ごと)に1回行い、1回の試験は5本以上とする。  
外観検査 ■有 □無、引張試験 □有 ■無、超音波深傷試験 ■有 □無  
□柱の帯筋(HOPP)の加工方法は、■H型(タガ型) □W型(溶接型)  
□S型(スパイラル型)とする。

□鉄筋の組立は、鉄筋継手部分及び交差部の要所を径0.8mm以上の鉄線で結束し、適切な位置にスペーサー、吊り金物等を使用して行う。  
なおスペーサーは、転倒及び作業荷重等に耐えられるものとし、スラブのスペーサーは、原則として鋼製とする。  
また、鋼製のスペーサーは型枠に接する部分に防錆処理を行ったものとする。

### (2) 鉄筋

使用箇所 壁・柱・梁 □合成樹脂製 □鋼製  
スラブ □合成樹脂製 □鋼製

### (3) 型枠

□材料 合板厚 12mmを標準とする。 □施工はJASS5による。

### □型枠存置期間

	基礎、梁側、柱、壁	せき板		支 柱	
		スラブ下、はり下	スラブ上	スラブ下	はり下
コン ク リ ー ト の 圧 縮 強 度	基礎、梁側、柱、壁 普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	スラブ下、はり下 普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	スラブ上 普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	基礎ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	基礎ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種
	15℃以上	2	3	4	6
	5℃～15℃	3	5	6	10
コン ク リ ー ト の 圧 縮 強 度	5℃未満	5	8	10	16
	5℃未満	5	8	10	16
コンクリートの圧縮強度		5.0 N/mm <sup>2</sup>	設計基準強度の50%		設計基準強度の 85% 100%

注) 1 片持ばり、底、スパン9.0m以上のはり下は、工事監理者の指示による。

注) 2 大ばりの支柱の盛りかえは行わない。また、その他のはりの場合も原則として行わない。

注) 3 支柱の盛りかえは、必ず直上階のコンクリート打ち後とする。

注) 4 盛りかえ後の支柱頂部には、厚い受板、角材または、これに代わるものを置く。

注) 5 支柱の盛りかえは、小ばりが終わってから、スラブを行う。

注) 6 上表以外のセメントを使用する場合は工事監理者の指示による。

## ⑥. 鉄骨工事

### (1) 鉄骨工事は指示のない限り下記による

■日本建築学会「JASS6」「鉄骨精度検査基準」「鉄骨工事技術指針」  
■社)日本鋼構造協会「建築鉄骨工事施工指針」  
□鉄骨製作管理技術者登録機構「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査補強マニュアル」

### (2) 工事管理者の承認を必要とするもの

■製作工場 ■製作要領書 ■工作図 ■施工計画書  
■認定または登録工場(大臣認定 S H Ⓜ R J グレード)  
■材料規格証明※、または試験成績書  
■鋼材 ■高力ボルト ■特殊ボルト □頭付スタッド  
※社)日本鋼構造協会「建築構造用鋼材の品質証明ガイドライン」の規格証明方法、またはミルシート。  
■社内検査表 □

### (3) 工事監理者が行う検査項目

(■印以外の項目の検査結果については、工事管理者に報告すること)

■現寸検査 ■組立・開閉検査 ■製品検査 ■建方検査 □

### (4) 接合部の溶接は下記によること

■平成12年建設省告示第1464号第二号イ、ロ  
□日本建築学会「溶接工作基準、同解説I、II、III、IV、V、VI、VII、VIII、IX」  
□日本建築学会「鉄骨工事技術指針・工事現場施工編」

### (5) 接合部の検査

■溶接部の検査 (検査結果は後日工事監理者に報告すること)

検査箇所	検査方法	検査率又は検査数			備 考
		工場自主検査	第三者受入検査	工事管理者	
■完全溶込み溶接部 (突合せ溶接)	外観検査(※)	100(%)個	%個	%個	※平成12年建設省告示第1464号第二号による (目視及び計測)
	超音波深傷検査	100(%)個	30(%)個	%個	
	内裏検査 (注) □硬さ試験 □示温塗料塗布		%個	%個	
	マクロ試験・その他		個	個	
■隅肉溶接	外観検査(※)	100(%)個	%個	%個	
第三者検査機関名					
第三者検査機関とは、建築主、工事監理者又は工事施工者が、受入検査を代行させるために自ら契約した検査会社をいう。					

注1) 現場溶接部については原則として第三者による全数検査とし、外観検査、超音波深傷検査100%行うこと

### ■高力ボルトの検査 (検査結果は後日工事管理者に報告すること)

軸力導入試験 □要 □否 高力ボルトすべり係数試験 □要 □否  
■一次締め後にマーキングを行い、二次締め後そのずれを見て、共回り等の異常が無いことを確認する。  
■トルンヤ形高力ボルトは二次締め後、ピンテールが破断していることを確認する。

### (6) 防錆塗装

■防錆塗装の範囲は、高力ボルト接合の摩擦面及びコンクリートで被覆される以外の部分とする。錆止めペイントは、■JIS K 5674、□IS K 5625、□、を使用して、4つ星2回塗りを標準とするが、実状に応じて決定すること。  
■現場における高力ボルト接合部及び接合部の素地調査は入念に行い、塗装は工場塗装と同じ錆止めペイントを使用し2回塗りとする。

### (7) 耐火被覆の材料

□

### (8) 鋼材の溶融亜鉛メッキ処理

□鋼材は溶融亜鉛メッキ処理とする。  
□摩擦面は、すべり係数値を0.40以上確保するため、溶融亜鉛メッキ後、軽くブラスト処理を施し、摩擦面の表面粗度を50μmRz以上とする。フィラーについても同様の処理を施す。  
□摩擦面をりん酸塩処理とする場合は、指定又は認定された条件に基づき、すべり耐力等を確認する。  
□メッキ処理を施すにあたっては、専門工事業者とパイプ材の処理方法について打ち合わせを行い、安全かつ円滑な施工に努めること。  
□無収縮モルタルに接する部分のメッキ処理は行わない。エポマリン(不メッキ材)を塗布。

## 7. 設備関係

□特記以外の梁貫通孔は原則として設けない。設ける場合は設計者の承認を得ること。  
□設備機器の架台及び基礎については工事監理者の承認を得ること。  
□床スラブ内に設備配管等を埋込む場合はスラブ厚さの1/3以下とし管の間隔を管径の3倍以上かつ5cm以上を原則とする。

## ⑧. その他

■諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。  
■各試験の供試体は公的試験機関にて試験を行い工事監理者に報告すること。  
■必要に応じて記録写真を撮り保管すること。

## ⑨. 令第129条の2の3の事項

建築物に設ける建築設備にあつては、構造耐力上安全なものとして、以下の構造方法による。

□建築設備(昇降機を除く)、建築設備の支持構造部及び緊結金物は、腐蝕又は腐朽のおそれがないものとする。  
□屋上から突出する水槽、煙突、冷却塔その他これらに類するもの(以下「屋上水槽等」という)は、支持構造部又は建築物の構造耐力上主要な部分に、支持構造部は建築物の構造耐力上主要な部分に緊結すること。  
□煙突の屋上突出部の高さは、れんが造、石造、コンクリートブロック造又は無筋コンクリート造の場合は鉄製の支持を設けたものを除き、90cm以下とする。  
□煙突で屋内にある部分は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを5cm以上とした鉄筋コンクリート造又は厚さが25cm以上の無筋コンクリート造、れんが造、石造若しくはコンクリートブロック造とすること。  
□構造物に設ける給水、排水その他の配管設備(給湯設備\*を除く)は  
□風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。  
□建築物の部分貫通して配管する場合においては、当該貫通部分に配管スリーブを設ける等有効な管の損傷防止のための措置を講ずること。  
□管の伸縮その他の変形により当該管に損傷が生ずるおそれがある場合において、伸縮継手又は可換継手を設ける等有効な損傷防止のための措置を講ずること。  
□管を支持し、又は固定する場合においては、つり金物又は防振ゴムを用いる等有効な地震その他の震動及び衝撃の緩和のための措置を講ずること。  
□法第20条第一号から第三号までの建築物に設ける屋上水槽等にあつては、平成12年建設省告示第1389号により、風圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して構造耐力上安全なものとする。  
□給湯設備は、風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。満水時の質量が15kgを超える給湯設備については、地震に対して安全上支障のない構造として、平成12年建設省告示1388号第5に規定する構造方法によること。  
\*「給湯設備」: 建築物に設ける電気給湯器その他の給湯設備で、屋上水槽等のうち給湯設備に該当するものを除いたもの。

特記事項

Mori  
株式会社  
MOHTEST OFFICE

株式会社  
建築設計室

帯広市緑ヶ丘東通東40番地  
TEL (R) (0155)-22-1102

一級建築士事務所(十)登録第136号

一級建築士第158671号 森 義孝

工事名

図名

中島配水場

耐震補強工事

設計図

検図

担当

製図

構造設計標準仕様書

縮尺

1/

日付

2022 年 6 月

番号

S

—

O

1

## 鉄骨構造標準図(1)

※修正箇所は下線を引くこと

## 1. 一般事項

## (1) 材料及び検査

- (a) 新構造設計特記仕様その1による。  
 (b) 本標準図はベースプレートを除き鋼材の厚さが40mm以下の工事に適用する。但し、ベースプレートの厚さは除く。  
 (c) 社内検査結果の検査報告書には、鉄骨の寸法・精度及びその他の検査結果を添付する。

## (2) 工作一般

- (a) 鉄骨製作及び施工に先立って「鉄骨工事施工要領書」を提出し工事監理者の承認を得る。  
 (b) 鋼管部材の分枝継手部の相貫切断は、鋼管自動切断機による。  
 (c) 高強度鋼の歪み矯正は、冷間矯正とする。

## (3) 高力ボルト接合

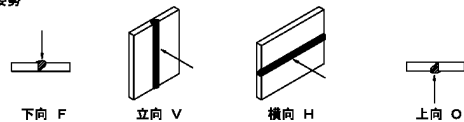
- (a) 本籍に使用するボルトと、仮締めボルトの併用はしてはならない。  
 (b) 高力ボルトの摩擦面の処理は黒皮などを座金外径2倍以上の範囲でショットブラスト、グライNDER掛け等を用いて除去した後、一様にさびを発生させた状態とする。但しショットブラスト、グリットブラストによる処理で表面荒さが、 $50\mu\text{m}$  Rz以上である場合は、さびの発生は要しない。  
 (c) 高力ボルトの締付けに使用する機器はよく整備されたものを使用し、締付けの順序は部材が十分に密着するよう注意して行う。

## (4) 溶接接合

- (a) 平成12年建設省告示第1464号第二号イ、ロによる、溶接部の性能、溶着金属の性能を満足すること。  
 (b) 溶接技能者  
 溶接技能者は施工する溶接に適合するJISZ3801(手溶接)又はJISZ3841(半自動溶接)の溶接検定試験に合格し引継ぎ、半年以上溶接に従事している者とする。  
 (c) 溶接機器  
 (イ) 交流アーク溶接機 300A~500A (ニ) 炭酸ガスアーク半自動溶接機  
 (ロ) アークエアガウジング機(直流) (ホ) 溶接電流を測定する電流計  
 (ハ) サブマージアーク溶接機一式 (ヘ) 溶接機乾燥器

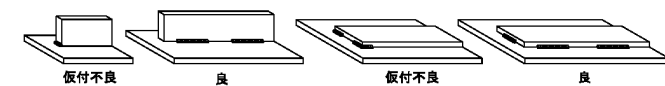
- (d) 溶接方法  
 アーク手溶接 (MC) ガスシールドアーク半自動溶接 (GC)  
 セルフ(ノンガス)シールドアーク半自動溶接 (NGC) アークエアガウジング (AAG)

## (e) 溶接姿勢

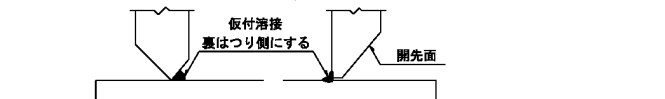


## (f) 組立溶接技能者は、原則として本工事に従事する者が行う。

- (イ) 仮付位置  
 組立溶接は溶接の始、終端、隅角部など強度上、工作上、問題となり易い箇所は避ける。



## (ロ) 完全溶込み溶接部の仮付溶接は必ず裏はつり側に施工する。



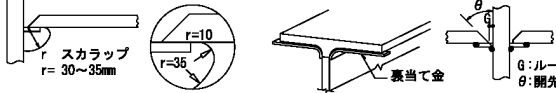
## (g) 溶接施工

- (イ) エンドタブ  
 ・完全溶込み溶接、部分溶込み溶接の両端部に母材と同厚で同形状のエンドタブを取り付ける。  
 ・エンドタブの材質は、母材と同質とする。但し、鉄骨製作に十分な実績があり、かつ溶接部の品質が十分確保できると判断される場合には監理者の承認を受けて他の方法とすることができる。  
 ・エンドタブの長さは、MC:35mm以上  
 NGC、GC:40mm以上とし特記のない場合は、溶接終了後、母材より10mm程度残し切断して、グライNDER仕上げとする。  
 ・プレス鋼板タブ、円形タブ使用については、資料を提出し設計者、又は工事監理者の承認を得る。

- (ロ) 裏当て金  
 材質は母材と同質材料とし厚さは手溶接で6mm、半自動溶接で9mm以上、巾は25mm以上を原則とする。但し、溶接性能が確認できれば監理者の承認を得て変更することができる。

- (ハ) スカラップ半径は30~35mmと10mmのダブルアールとする。但し梁成がD=150mm未満の場合のスカラップはr=20mmとする。

## (ニ) ノンスカラップ工法



## (ホ) 裏はつり

- 標準図の溶接においてAAGと記載のある部分は全て、アークエアガウジングを行った上で、部材に確認マークを付ける。

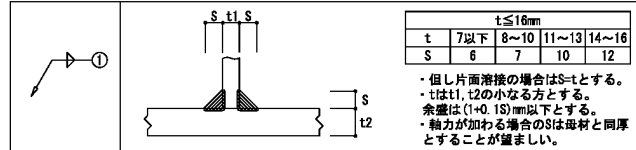
- (ヘ) 現場溶接の開先面には、溶接に支障のない防錆材を塗布する。又、開先面を傷めない様に養生を行う。

## (5) 塗装

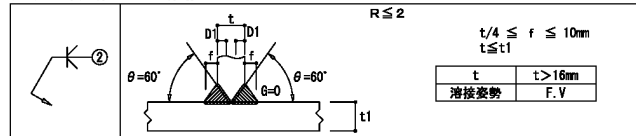
- コンクリートに埋め込まれる部分及びコンクリートとの接触面で、コンクリートと一体とする設計仕様になっている部分は、塗装をしない。

## 2. 溶接標準図 (注) f:余盛 G:ルート間隔 R:フェース S:脚長 (単位mm)

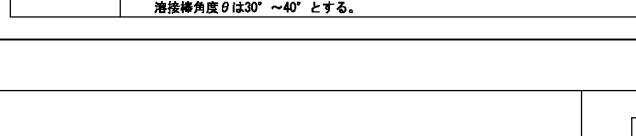
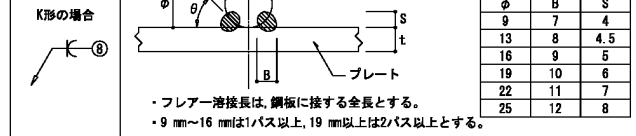
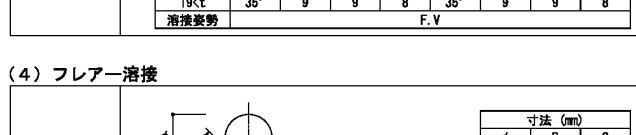
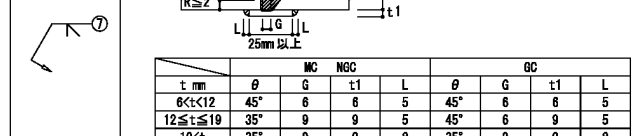
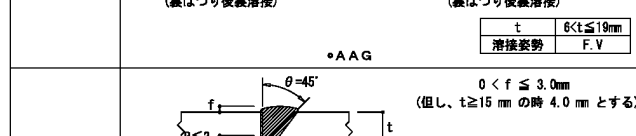
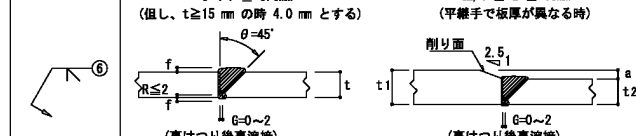
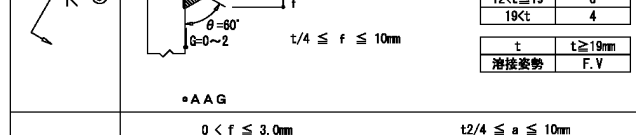
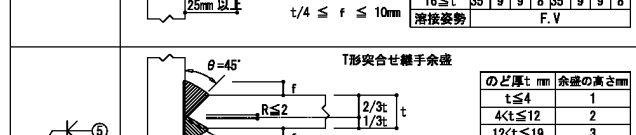
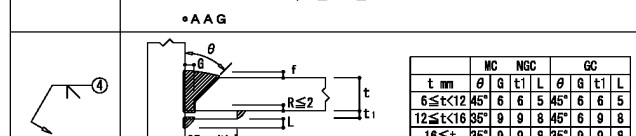
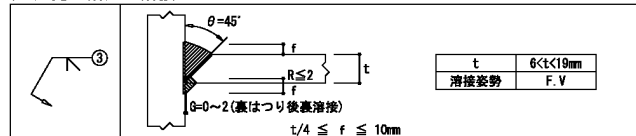
## (1) 隅肉溶接



## (2) 部分溶け込み溶接 (使用箇所に注意)

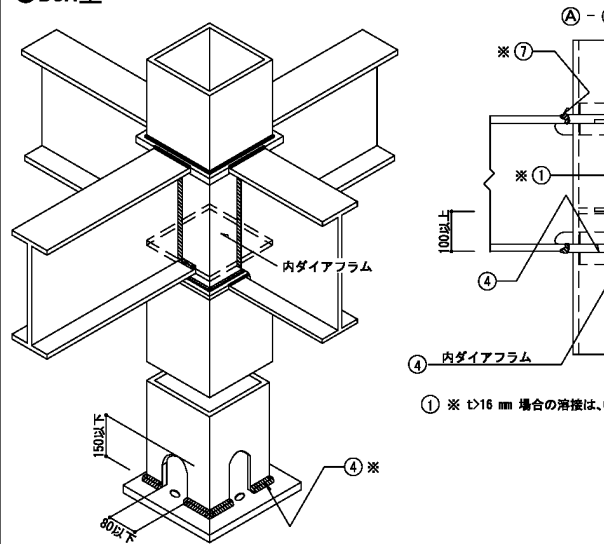


## (3) 完全溶込み溶接 (平継手 T形継手)



※ 溶接記号番号を○中に記入のこと

## ●BOX型 (通しダイアフラムの場合)

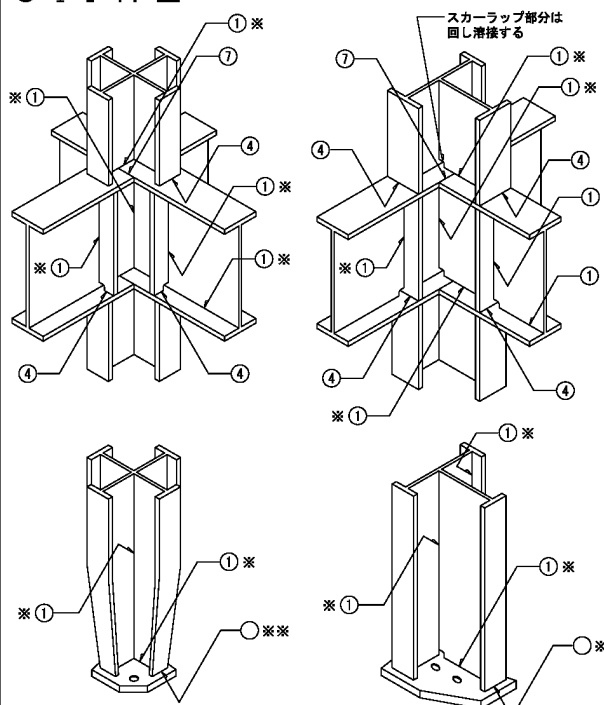


## ●鋼材種別による溶接条件

鋼材の種類	溶接材料と入熱量・パス間温度	
	溶接材料	入熱量(kJ/cm) パス間温度(℃)
400N/mm <sup>2</sup> 鉄鋼	JIS Z 3312	40 以下 350 以下
	YGM-11, 15	
	YGM-18, 19	
	JIS Z 3315	
490N/mm <sup>2</sup> 鉄鋼	YGA-50W, 50P	40 " 350 "
	JIS Z 3312	40 " 350 "
	YGM-11, 15	30 " 250 "
	YGM-18, 19	40 " 350 "

注) STKR, BCR, BCP材はJIS Z 3312, のみ使用可  
 「新構造設計特記仕様その1 6. 鉄骨工事(2) 認定または登録工場」のグレード別に定められた適用範囲と溶接条件制限事項による。

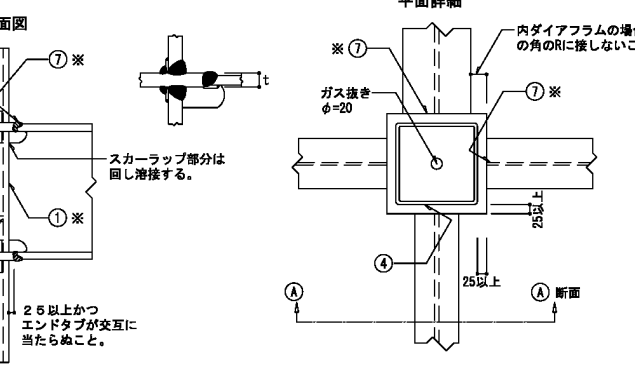
## ●I-IH型



① ※ t16 mm 場合の溶接は、②又は③~⑤とする。

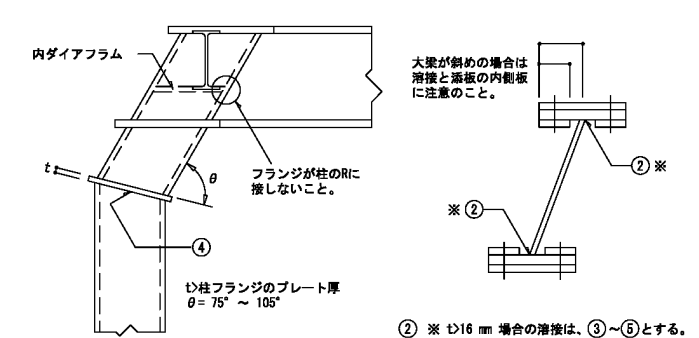
○ ※ ※ 印は設計者が記入すること。

⑦ ※ はりフランジは、通しダイアフラムの厚み(t)の内部で溶接すること。

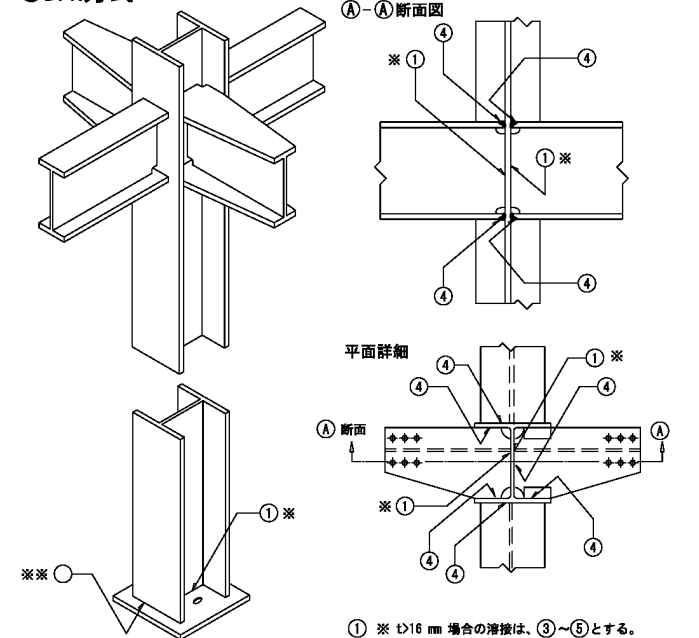


ダイアフラム厚は、接合する梁の最大厚の2サイズアップ以上とする。  
 < 柱材料: BCR295, BCP325を使用する場合 >  
 ダイアフラムは、柱フランジ厚 16 mm未満の場合 SN490C SN490B  
 柱フランジ厚 16 mm以上の場合 SN490C を使用する。

## ●柱が途中で折れる場合、及び梁せいが異なる場合



## ●B.H方式



① ※ t16 mm 場合の溶接は、③~⑤とする。



## 鉄骨構造標準図(2)

※修正箇所は下線を引くこと

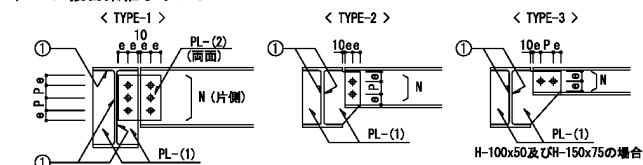
## 3. 継手標準図, その他

## (1) 高力ボルト、ボルト、アンカーボルトのピッチ (P) ボルト穴径・最小継端距離 (mm)

呼び径 d	ボルト 穴 径	最小継端距離 (e)			ピッチ (P)	
		(1)	(2)	(3)	(2) (3) の標準	最小
高力ボルト	M16	18	40	28	22	40
	M20	22	50	34	26	40
	M22	24	55	38	28	40
	M24	26	60	44	32	45
アンカーボルト (内径ボルト・ボルトを 示す)	M16	21 (16.5)	28	22	(40)	(60)
	M20	25 (20.5)	34	26	(40)	(60)
	M22	27 (22.5)	38	28	(40)	(60)
	M24	29 (24.5)	44	32	(45)	(60)
	M27	32	49	36		
	M30	35	54	40		
	M30 を越える	呼び径 + 5	9d/5	4d/3		

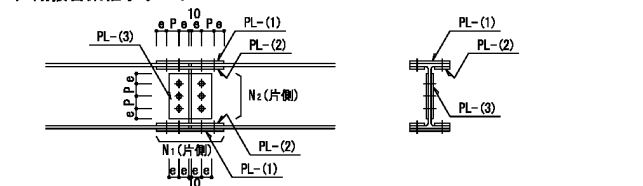
- [注] (1) 引張材の接合部で応力方向にボルトが3本以上並ばない場合の応力方向の継端距離。  
 (2) セン断線・手動ガス切断線の場合の継端距離。  
 (3) 圧延線・自動ガス切断線・のこ引き線・機械仕上線の場合の継端距離。

## (2) ピン接合梁継手リスト



符号	タイプ	部 材	PL-(1)	PL-(2)	N-径
	3	H-125・60・6・8	6		2-M16
	3	H-150・75・5・7	6		2-M16
	2	H-175・90・5・8	6		2-M16
	2	H-200・100・5・8	6		2-M16
	2	H-250・125・6・9	6		3-M16
	2	H-300・150・6・9	9		3-M20
	2	H-350・175・7・11	9		4-M20
	1	H-350・175・7・11	9	6	4-M20
	2	H-400・200・8・13	9		5-M20
	1	H-400・200・8・13	9	9	4-M20

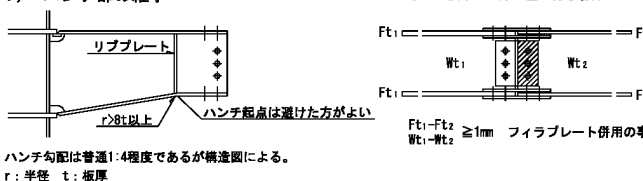
## (3) 剛接合梁継手リスト (SCSS-H97による)



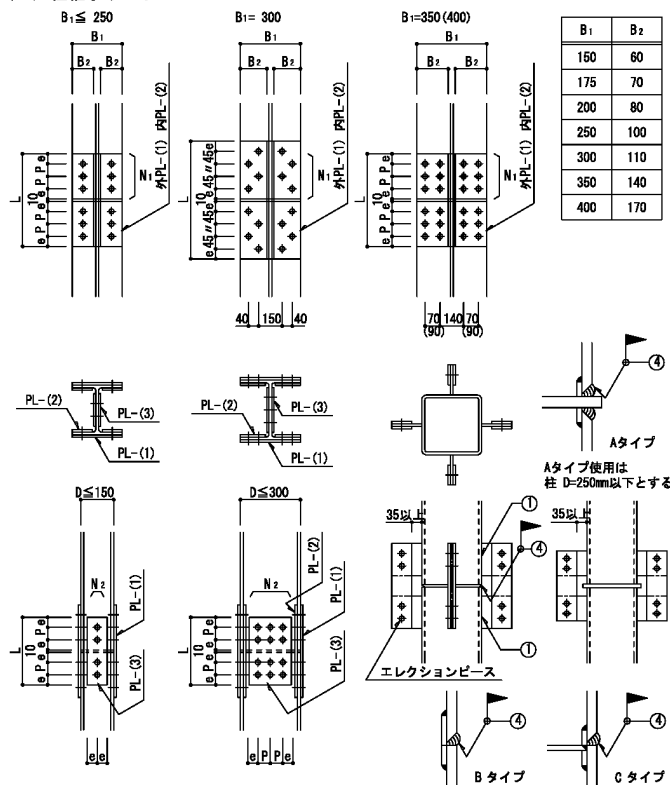
[注] 端部をRとする場合の部材は設計図による。

符 号	部 材	フランジ		ウェブ	
		PL-(1)	PL-(2)	N1-径	N2-径

## (4) ハンチ部の継手



## (5) 柱継手リスト



[注] 現場溶接は原則として超音波探傷試験を100%行う。

符 号	部 材	フランジ		ウェブ	
		PL-(1)	PL-(2)	N1-径	N2-径

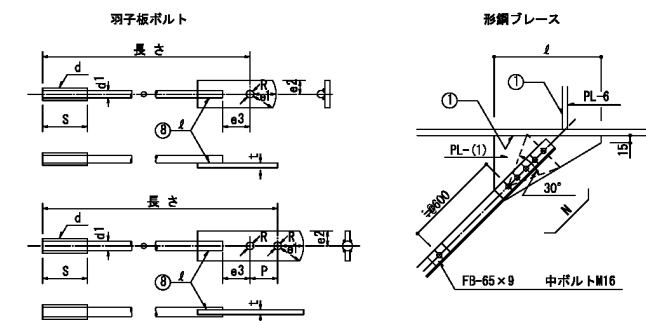
## (6) ターンバックルブレース (JIS規格品とする … JIS A 5540 … 2008 / 5541 … 2008)

ねじの呼び (d)		M12	M14	M16	M18	M20	M22	M24
軸径 d1	最 大	10.83	12.66	14.66	16.33	18.33	20.33	22.00
	最 小	10.59	12.41	14.41	16.07	18.07	20.07	21.69
調整ねじの長さ		S	100	115	125	140	150	165
取付けボルト穴径		R	17.0	17.0	17.0	21.5	23.5	21.5
許容差 +0, -0.5 mm								
はしあき (最小)		(2) e1	40	40	45	50	55	50
切板板	へりあき (最小)	(1) e2	28	28	28	34	38	38
	板 厚 t	e2	6	6	6	9	9	9
平鋼板	へりあき (最小)	(1) e2	25.0	25.0	25.0	32.5	37.5	37.5
	板 厚 t	e2	5	6	6	9	9	9
ボルト頭から取付けボルト穴迄の長さ (最小)		e3	52	52	59	66	73	70
溶接長さ (最小)		ℓ	40	50	55	60	75	85
(2) 取付けボルト		種 類	JIS B 1188 2種高力ボルト (F10T)					
		ねじの呼び	M12	M16	M16	M20	M20	M22
		本 数	1	1	1	1	1	2

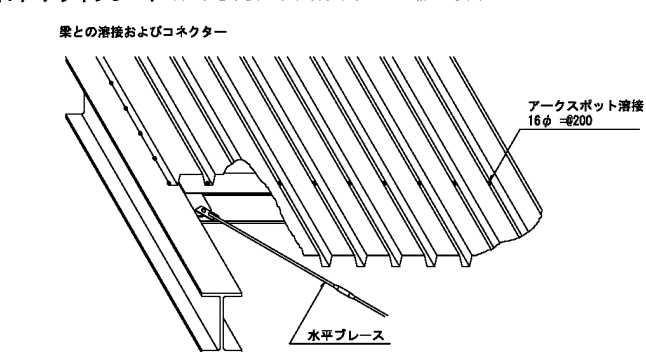
- [注] (1) e1, e2が確保されてれば形状は自由でよい。  
 (2) 羽子板とガセットプレートの場合は表に示す取付けボルトを使用し、一面せん断(支圧)接合とする。

## (b) 形鋼ブレース

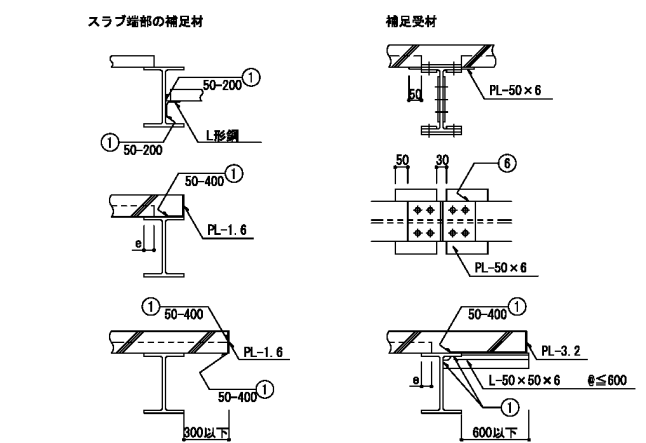
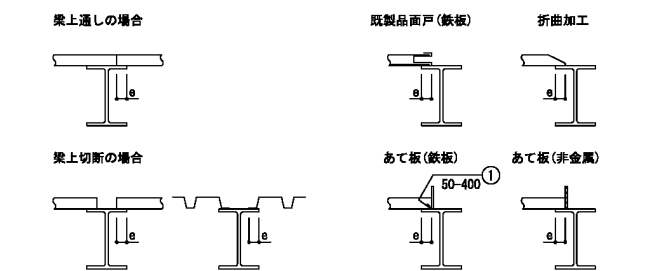
符 号	部 材	PL-(1)	N-径	ℓ



## (7) デッキプレート (床剛性を考慮する合成床、合成梁のときは構造図参照)

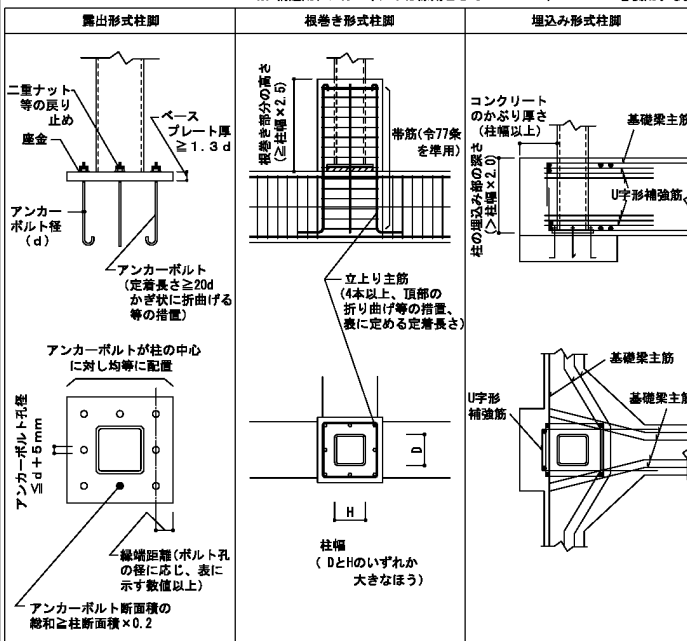


受梁へのかり寸法及端部処理 e≧35mm 且つ、メーカーの仕様による。



## (8) 柱脚

[注] 許容応力度計算を行わなかった場合の構造形式  
 ※ 構造用アンカーボルトは原則としてJIS B 1220, JIS B 1221を使用する。

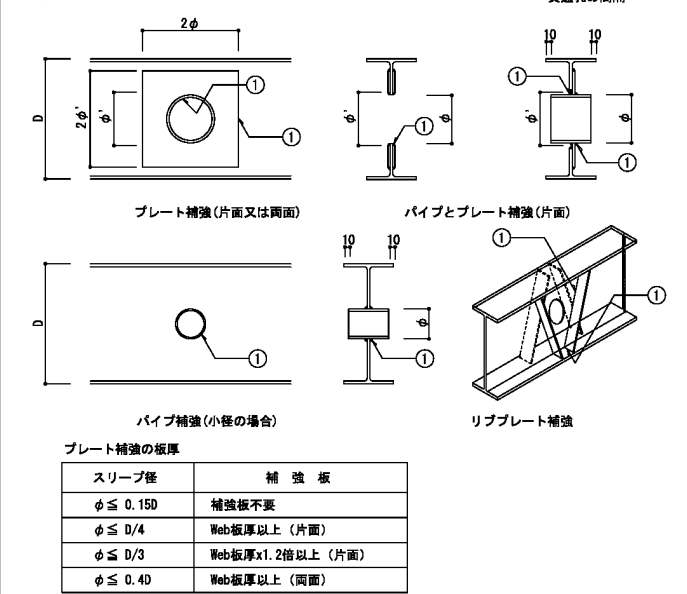


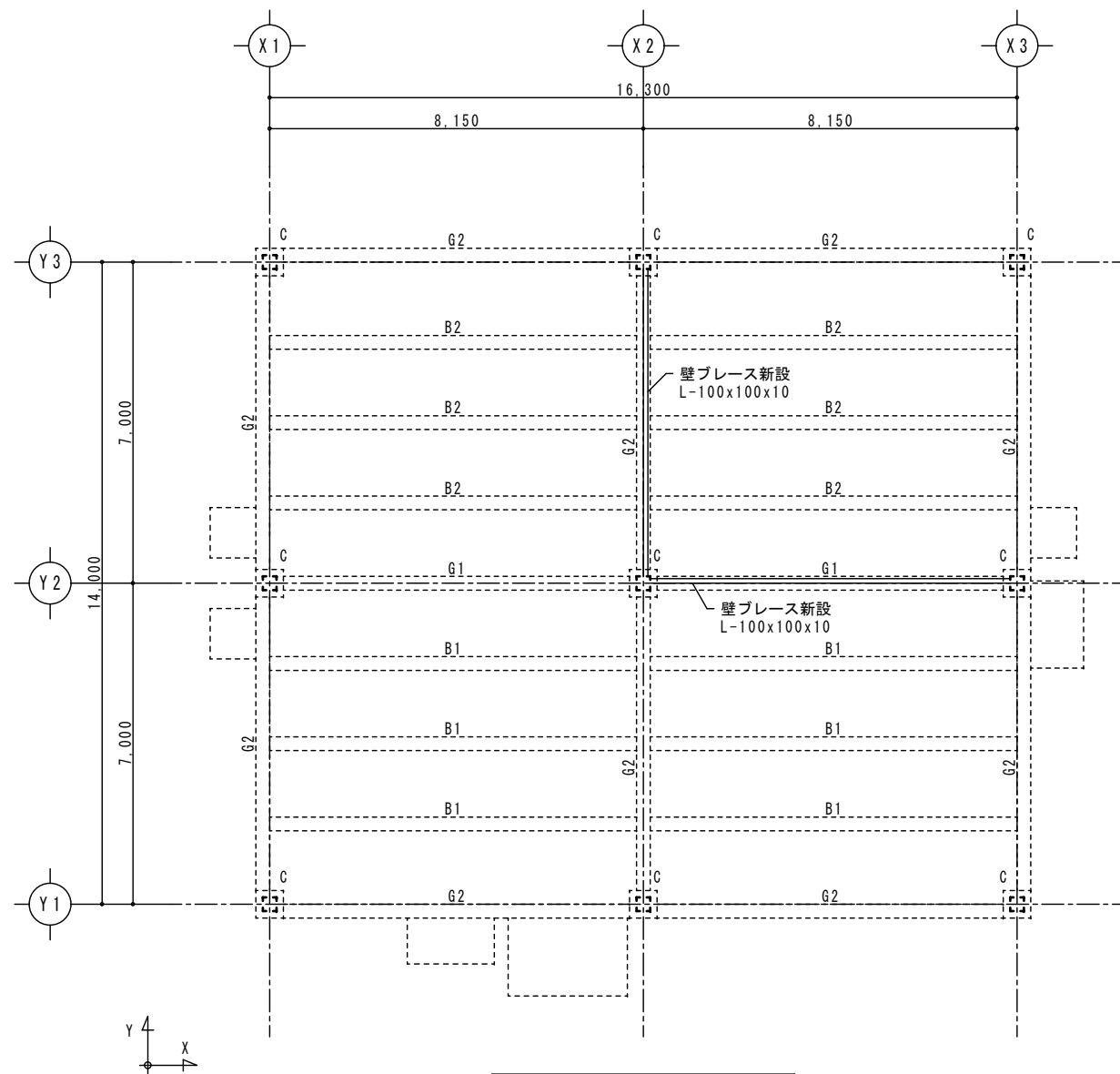
## (9) 頭付きスタッド (JIS B 1198 - 2011)

形 状	スタッド材				
	呼び名	軸径 d mm	頭径 D mm	頭高さ T mm	呼び長さ L mm
	φ13 mm	13	25	8	□80 □100 □120 □
	φ16 mm	16	29	8	□80 □100 □120 □
	φ19 mm	19	32	10	□80 □100 □120 □150 □
	φ22 mm	22	35	10	□80 □100 □120 □150 □
	φ25 mm	25	41	12	□120 □150 □170 □

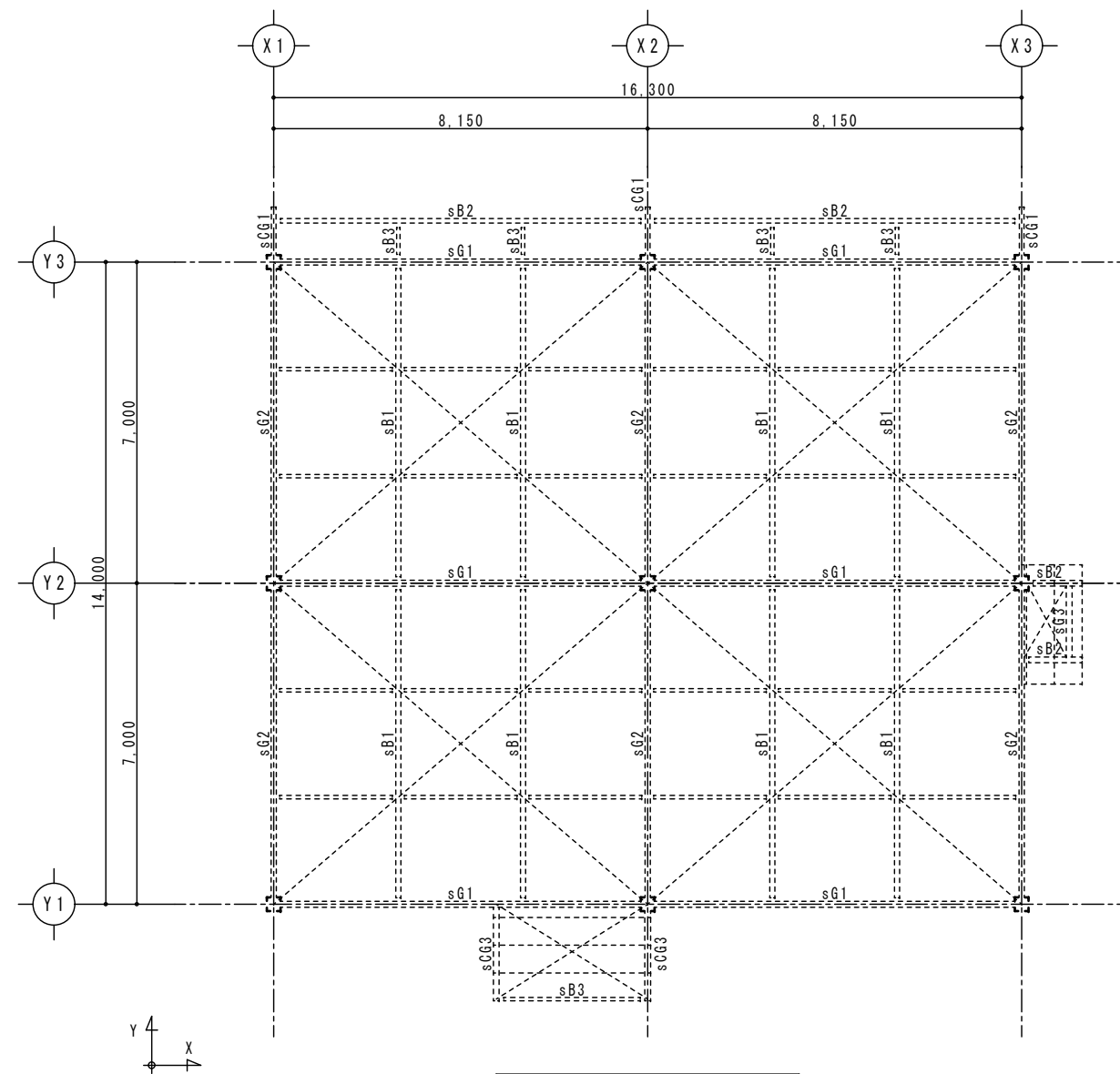
## (10) 梁貫通補強

- 計算で確認された場合は下図の位置、寸法及び補強方法によらずに良い。
- 梁端部 (内法スパン ℓ<sub>0</sub> の1/10以内かつ、2D以内) は避ける。
- φ ≤ 0.40
- φ' は補強板の穴径を示す。





1階床梁伏図 1 / 150

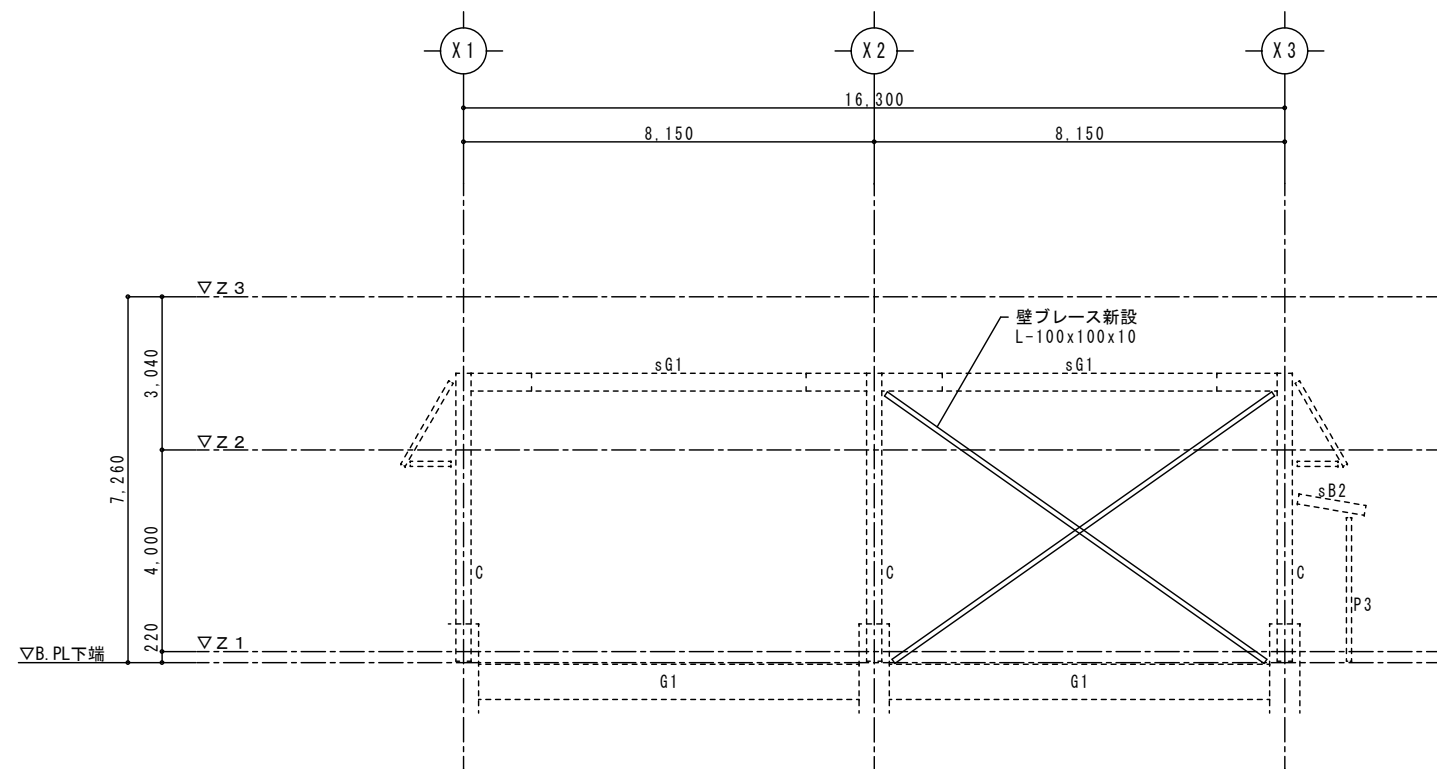


屋根梁伏図 1 / 150

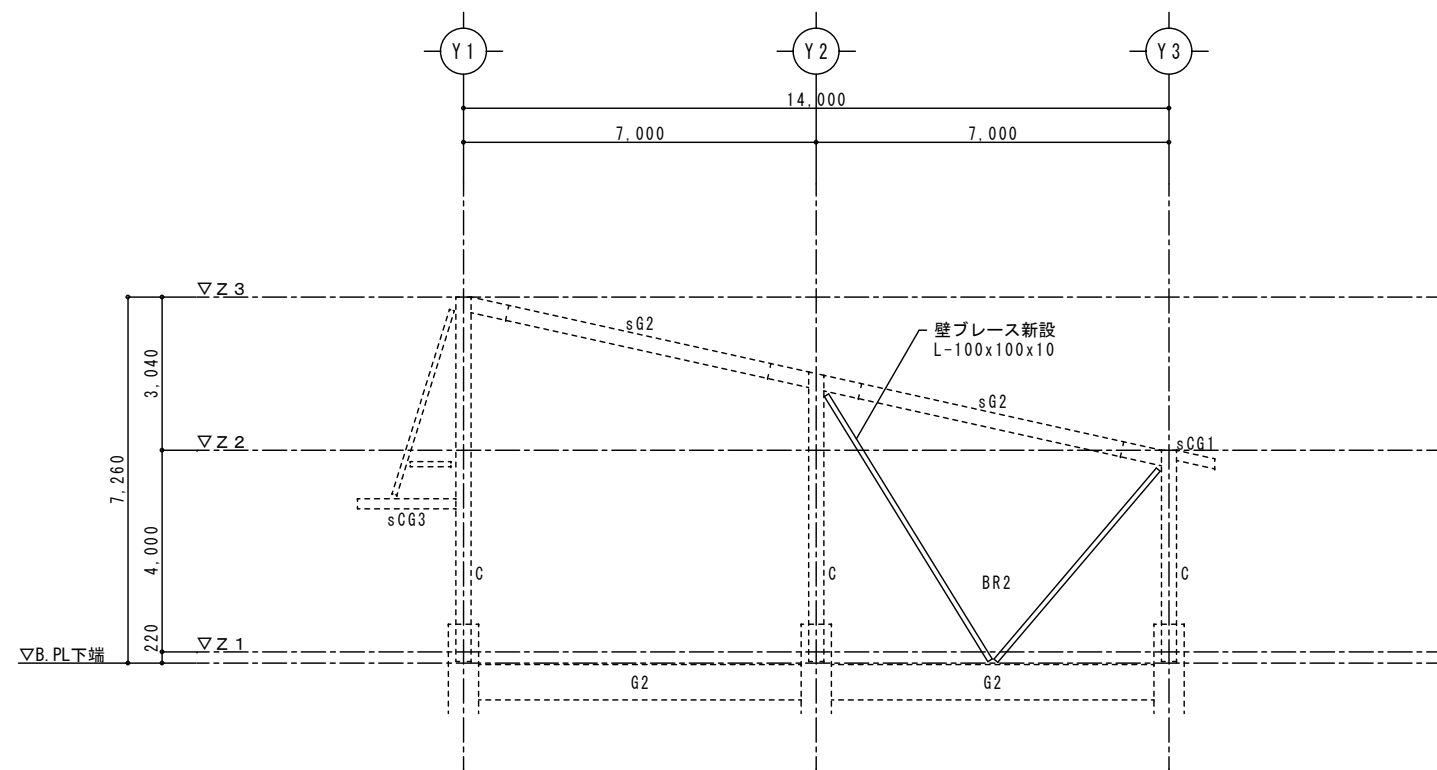
特記事項

**Mori** 株式会社 **モリ** 建築設計室  
帯広市緑ヶ丘東通東40番地  
TEL (代) 0155-22-1102  
一般建築士事務所(十)登録第136号  
一般建築士第158671号 森 義孝

工 事 名	中 島 配 水 場				検 図		担 当		製 図	
	耐 震 補 強 工 事                      設 計 図									
図 名	1 階 ・ 屋 根 梁 伏 図		縮 尺	1/150	日 付	2022 年   6 月	番 号	S                      —                      0 4		

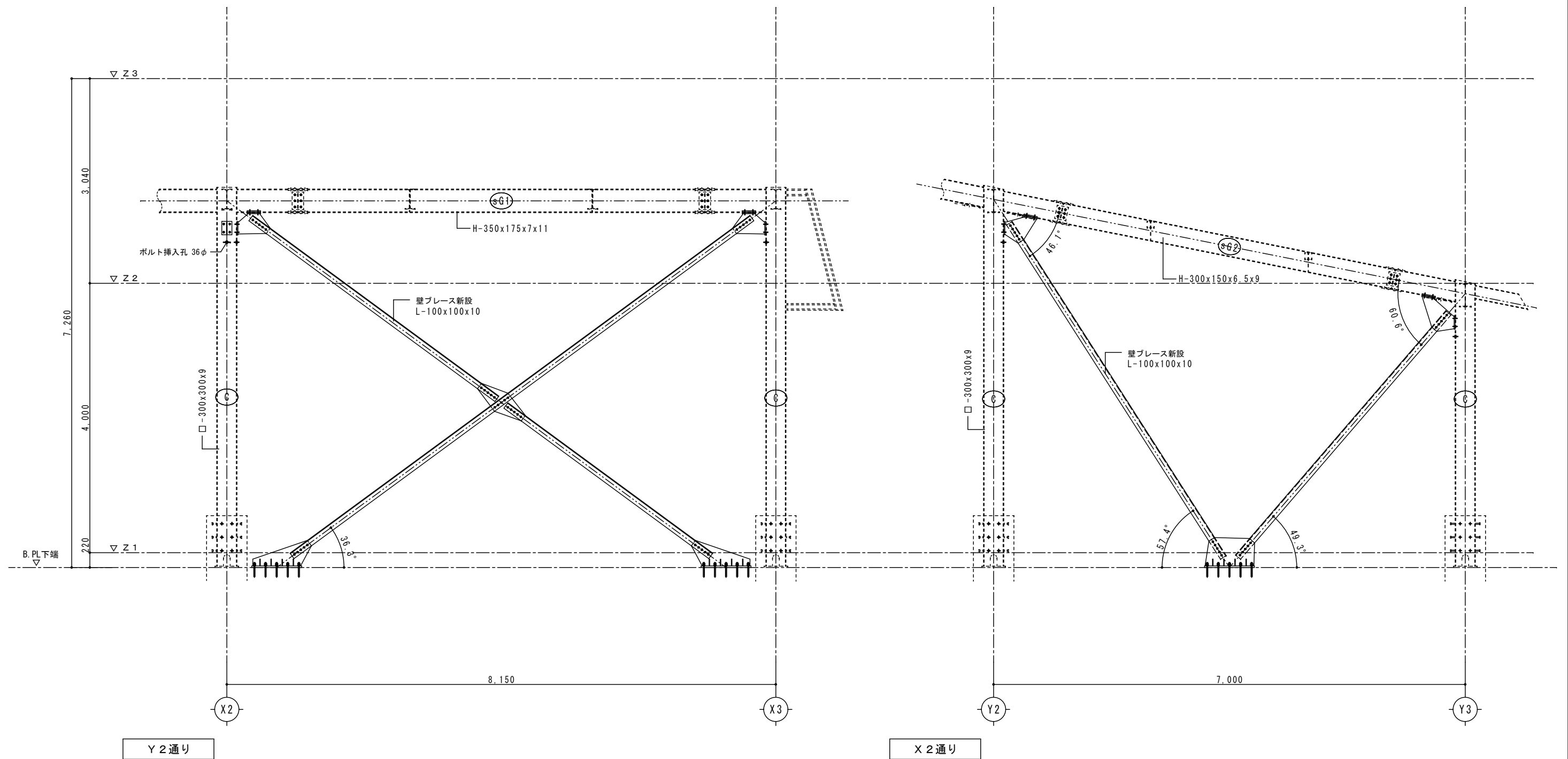


Y 2 通り



X 2 通り

特記事項



特記事項

**Mori** 株式会社 **モリ** 建築設計室  
帯広市緑ヶ丘東通東40番地  
TEL (代) 0155-22-1102  
一級建築士事務所(十)登録第136号  
一級建築士第158671号 森 義孝

工事名	中島配水場				検図		担当		製図	
図名	耐震補強工事 設計図									
	架構詳細図	縮尺	1/60	日付	2022 年 6 月	番号	S	—	06	

